

155

188

代  
言  
人  
堀  
田  
康  
人  
著

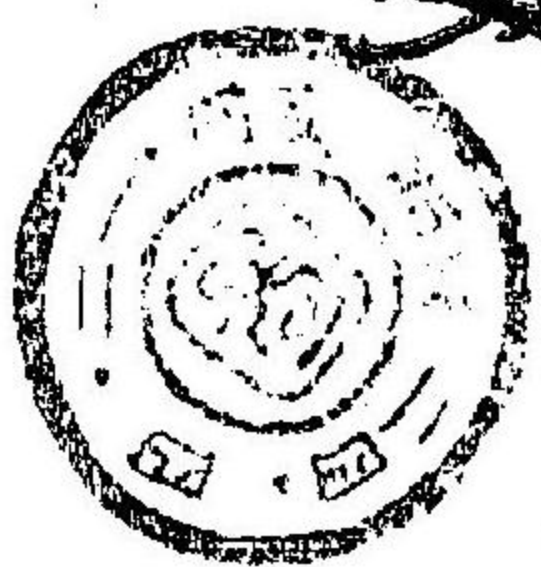
民事訴訟法實例前篇

京都

精理館發行

488

京都地方裁判所長正位判事法律學士加藤憲君序文  
京都地方裁判所判事阿部保治郎君校閱  
代言人堀田康人著



# 民事訴訟法實例前篇

京都

精理館發行

序

堀田康人氏所著民事訴訟法實例刻成  
囑序於余余曰民法之於訴訟法猶機械  
之於膏油力歟機械由膏油力而動民法  
由訴訟法而運焉此著蓋有觀於此歟世  
之解法律者不爲鮮然往々失踈漏流駁  
雜或略而不精或詳而過繁無能得其中

者今此編能着目於實用而詳略得宜法  
意之所在一目瞭然豈非余所謂運用民  
法之膏油力乎哉吁聽訟固難作訴亦不  
易能熟讀此編則通曉實理而臨機運法  
莫不如意也書以爲序

明治廿四年三月

加太邦憲

緒言

社會ノ開進ニ伴フテ事物ノ繁重ニ赴クハ天數ノ免カレサル  
所ナリ吾邦民事訴訟法ノ今日ニ實施セラレヤ此天數ニ於  
テ然ラサルヲ得サレハナリ蓋シ瀕繁ノ世ニ在テ法ノ周密ヲ  
要スルハ素ヨリ言ヲ待タス吾人モ亦舊來簡易單純ノ世ニ處  
スルノ思想ヲ蟬脫シテ百般ノ事物ニ對シ周密ノ注意ヲ加ヘ  
サル可ラス世ノ訴訟法ヲ觀ル者此レヲ之レ慮ラスシテ徒ニ  
非難ヲ法文ノ澁難ナルニ加ヘ妄リニ氣ヲ法條ノ浩瀚ナルニ  
奪ハレテ詳密ノ研究ヲ爲スコトヲ勉メス加之或ハ流派ノ異  
ナルカ爲メ或ハ手續ノ新奇ナルカ爲メ或ハ業務ノ多忙ナル

カ爲メニ考究ノ不便ヲ感スルコトナキニアラス。故ニ訴訟法  
ノ實施以來。月ヲ閱スルコト既ニ三。而シテ能ク此靈妙ノ法機。  
周到ノ手續ヲ運用スルコト能ハス。空シク固有ノ權利ヲ失墜  
スルノ不幸ニ陷ル者ナキヲ期ス可カラス。豈ニ遺憾ナラスヤ  
然リト雖モ。此法ヤ。浩瀚深遠ナリ。能ク其運用ヲ熟知セントス  
ルニ至テハ。素ヨリ専門家其人ノ爲ニシテ。通常一般人ノ爲シ  
得ヘキ所ニアラス。於是乎。一目ノ下。實用ニ應シ。咄嗟ノ間。所欲  
ヲ充タスニ足ルノ著作アラシク。世人ノ最モ希望スル所ト  
ナレリ。輒近其必要ニ應セント欲スル者。一二。此種ノ著作ナキ  
ニアラスト雖モ。概テ杜撰疏漏ニシテ。能ク世ノ需用ヲ充タス

モノ之レアラヌ。余茲ニ感スル所アリ。數月ノ日子ヲ費シ。詳密  
ノ調査ヲ盡シ。終ニ實例三百餘種ヲ得テ。以テ大方諸彦ノ參考  
ニ供セント欲シ。判事阿部保治郎君ノ校正ヲ請ヒ。本著ヲ公ニ  
スルニ至レリ。著者ノ淺學陋識。素ヨリ誤謬ナキヲ保セスト雖  
モ。幸ニ大方諸君ノ坐右ニ侍シテ。萬一ヲ裨補スルコトアラハ。  
豈ニ獨リ著者ノ榮ノミナランヤ。若シ夫レ。誤謬漏脱ノ如キハ。  
他日ヲ期シテ。更正増補ヲ怠ラサルヘシ。

明治廿四年三月

著者謹識

本書は、民事訴訟法の實例を、第一章から第七章まで、分けて掲載する。第一章は管轄及當事者、第二章は訴訟の提起、第三章は訴訟の進行、第四章は判決の執行、第五章は訴訟費用、第六章は訴訟の終結、第七章は訴訟の救済である。本書は、民事訴訟法の實例を、第一章から第七章まで、分けて掲載する。第一章は管轄及當事者、第二章は訴訟の提起、第三章は訴訟の進行、第四章は判決の執行、第五章は訴訟費用、第六章は訴訟の終結、第七章は訴訟の救済である。

民事訴訟法實例前編

凡例及目次

本書之レヲ前後兩編ニ分ツ而シテ前編載スル所ノモノハ左ニ掲クルカ如シ蓋シ本書ハ章ヲ以テ大區別ヲ爲シ章亦之ヲ細分ス凡ソ一箇率連シタル手續ハ悉ク之ヲ其細分中ニ羅列シ若シ對照ヲ要スルモノアレハ各例ノ冒頭又ハ文中ニ於テ之ヲ示ス故ニ名稱同クシテ適用ヲ異ニスルモノ亦尠カラス觀者宜シク左掲目次ニ就テ其適用ノ區分ヲ過ラサラシムトシテ乞フ

○第一章 管轄及當事者

裁判管轄ニ關スル例

(一) 管轄裁判所指定ノ申請

〔三〕右申請却下ニ對スル抗告

三 丁

〔三〕裁判管轄ニ付テノ契約

四 丁

〔四〕管轄違ノ防訴抗辯

五 丁

〔五〕訴訟事件移送ノ申立

六 丁

判事及書記ノ忌避ニ關スル例

〔六〕掛判事書記忌避ノ申請(其一)

九 丁

〔七〕同(其二)

十 丁

〔八〕忌避申請却下ニ對スル即時抗告

十一 丁

訴訟能力ニ關スル例

〔九〕訴訟能力及法律上代理人欠缺ノ防訴抗辯

十三 丁

〔二〇〕特別代理人任命ノ申請(其二)

十四 丁

〔二二〕同(其二)

十六 丁

〔二二〕右申請却下ニ對スル抗告

十八 丁

訴訟代理人及輔佐人ニ關スル例

〔二三〕訴訟代理委任狀(其一)

二十一 丁

〔二四〕同(其二)

二十二 丁

〔二五〕代理委任消滅通知ノ上申(其一)

全 丁

〔二六〕同(其二)

二十四 丁

〔二七〕輔佐人願

二十五 丁

訴訟上救助ニ關スル例

〔二八〕訴訟上救助ノ申請(其一)

二十七 丁

〔二九〕同(其二)

二十八 丁

〔三〇〕資力証明書

三十 丁

〔三一〕訴訟上救助付與ノ決定訴訟上救助ノ取消

ト拒ム決定ニ訴訟上救助額追拂ヲ命スルコ

ト拒ム決定ニ對スル抗告

三十一丁

(三二二) 訴訟上救助拒絶ノ決定ニ訴訟上救助取消ノ

決定ニ訴訟上救助額追拂ヲ命セラレタル決

定ニ對スル抗告

三十三丁

(三二三) 辯護士附添ノ申請

三十四丁

(三二四) 右申請却下ニ對スル抗告

三十五丁

假住所ニ關スル例

三十七丁

(三二五) 假住所届

〇第二章 通常訴訟

訴狀ニ關スル例

(三二六) 第一審訴狀(其一)

三十九丁

(三二七) 同(其二)

四十一丁

(三二八) 同(其三)

四十三丁

(三二九) 同(其四)

四十五丁

(三三〇) 同(其五)

四十八丁

(三三一) 同(其六)

五十丁

(三三二) 第二審訴狀(控訴)

五十二丁

(三三三) 訴狀差戻ニ對スル即時抗告(其一)

五十四丁

(三三四) 同(其二)

五十五丁

(三三五) 訴取下ノ申立(其一)

五十六丁

(三三六) 同(其二)

五十七丁

答辯書ニ關スル例

(三三七) 第一審答辯書

五十九丁



〔三八〕第二審答辯書

六十一丁

防訴抗辯ニ關スル例

〔三九〕防訴抗辯

六十五丁

〔四〇〕本案ノ辯論ヲ求ムル申立

六十六丁

反訴ニ關スル例

〔四一〕反訴申立

六十九丁

附帶控訴ニ關スル例

〔四二〕付帶控訴ノ申立

七十一丁

公示送達ニ關スル例

〔四三〕公示送達ノ申請

七十三丁

證據調ニ關スル例

〔四四〕人証鑑定ヲ求ムル申立

七十五丁

〔四五〕証人鑑定人不參屆

七十六丁

〔四六〕右不參ニ對スル罰金賠償取消ノ申請

全丁

〔四七〕証言鑑定宣誓拒絕ノ申立

七十七丁

〔四八〕右拒絕却下ニ對スル決定ニ付即時抗告

七十八丁

〔四九〕右拒絕ノ爲メ言渡サレタル賠償罰金ニ對ス

ル即時抗告

七十九丁

〔五〇〕証人鑑定人忌避ノ申請

八十丁

〔五一〕右申請却下ニ對スル即時抗告

八十一丁

〔五二〕人証鑑定拋棄ノ申立

八十二丁

〔五三〕証人鑑定人日常旅費立替金請求書

八十三丁

〔五四〕相手方ニ對シ証書提出ヲ求ムル申立

八十四丁

〔五五〕第三者ノ手ニ存スル証書取寄ノ爲メ期間指

定ノ申立

八十五丁

〔五六〕 公吏及官廳ノ手ニ存スル証書取寄方囑託ノ申立

八十六丁

〔五七〕 証書取寄申立却下ノ申請

八十七丁

〔五八〕 私署証書ノ檢眞ヲ求ムル申立

八十八丁

〔五九〕 公正証書及檢眞ヲ經タル私署証書ノ眞否確定ヲ求ムル申立

八十九丁

〔六〇〕 檢証ヲ求ムル申立

九十丁

〔六一〕 當事者本人ノ訊問ヲ求ムル申立

九十一丁

〔六二〕 証據保全ヲ求ムル申請(其一)

全丁

〔六三〕 同(其二)

九十三丁

〔六四〕 右申請却下ニ對スル抗告

九十四丁

〔六五〕 証據調ノ追完補充ヲ求ムル申立

九十五丁

〔六六〕 証據決定ノ變更ヲ求ムル申立

九十七丁

期日期間ニ關スル例

〔六七〕 辯論期日變更延期ノ申請

九十九丁

〔六八〕 期間伸長短縮ノ申請

百丁

訴訟ノ中斷中止休止ニ關スル例

〔六九〕 承繼人呼出ノ申立

百〇三丁

〔七〇〕 訴訟手續受繼通知ノ申立

百〇四丁

〔七一〕 訴訟手續續行通知ノ申立

百〇五丁

〔七二〕 訴訟手續休止届

百〇六丁

〔七三〕 訴訟手續中止ノ申請

百〇七丁

〔七四〕 右申請却下ニ對スル即時抗告

百〇八丁

〔七五〕訴訟手續中止ニ對スル抗告

百〇九丁

欠席判決ニ關スル例

〔七六〕欠席判決ヲ求ムル申立(其一)

百一丁

〔七七〕同(其二)

百十二丁

〔七八〕右申立却下ニ對スル即時抗告

百十四丁

〔七九〕欠席判決ニ對スル故障申立

百十五丁

〔八〇〕右申立却下ニ對スル即時抗告

百十六丁

〔八一〕欠席判決故障ニ付原狀回復申立

百十七丁

〔八二〕右申立却下ニ對スル即時抗告

百十九丁

〔八三〕欠席判決ニ對スル故障棄却申立

百二十丁

〔八四〕欠席判決ニ對スル故障取下申立

百二十一丁

其他準備書面ニ關スル例

〔八五〕次回ノ辯論期日ニ提出スヘキ事項通知ノ申立

立

百二十三丁

〔八六〕訴擴張ノ申立

百二十四丁

〔八七〕重要事項ノ申立

百二十五丁

〔八八〕前審ニ於テ主張セザリシ攻撃防禦ノ方法申立

立

百二十六丁

〔八九〕防禦方法却下申立

百二十七丁

〔九〇〕防禦方法留保ノ判決ニ依リ更ニ訴訟ノ審理ヲ求ムル申立

立

百二十八丁

假執行ノ申立ニ關スル例

〔九一〕假執行ノ宣言ヲ求ムル申立

百三十一丁

〔九二〕假執行ノ宣言ヲ拒ム申立

百三十三丁

〔九三〕假執行ニ於テ支拂給付シタルモノノ返還ヲ求ムル申立 百三十四丁

〔九四〕故障申立「控訴提起」ニ付假執行ノ停止取消ヲ求ムル申立 百三十五丁  
百三十六丁

〔九五〕假執行ノ續行申立 百三十九丁  
判決ノ更正補充及送達ニ關スル例 百四十丁

〔九六〕判決ノ更正ヲ求ムル申立 百四十一丁  
〔九七〕判決更正ニ對スル即時抗告 百四十二丁

〔九八〕判決補充ノ爲メ追加裁判ヲ求ムル申立 百四十三丁  
〔九九〕判決送達ノ申立 百四十四丁

原狀回復ニ關スル例  
〔一〇〇〕控訴提起ニ付原狀回復申立 百四十五丁

〔一〇一〕原狀回復申立ニ付強制執行停止取消ヲ求ムル申立 百四十六丁

〔一〇二〕原狀回復執行停止申立ニ關シ強制執行ノ續行ヲ求ムル申立 百四十七丁

抗告ニ關スル例  
〔一〇三〕抗告 百四十八丁

〔一〇四〕即時抗告 百四十九丁  
〔一〇五〕即時抗告ニ付原狀回復申立 百五十丁

〔一〇六〕抗告ニ對スル申立 百五十一丁  
〔一〇七〕受命判事受託判事書記ノ處分變更ヲ求ムル申立 百五十二丁

訴訟費用ニ關スル例  
百五十三丁  
百五十四丁

- (二〇八) 訴訟費用額確定ノ申請(其二) 百五十五丁
  - (二〇九) 同(其二) 百五十六丁
  - (二一〇) 訴訟費用計算書 百五十七丁
  - (二一一) 費用ノ負擔ヲ求ムル申立 百六十一丁
  - (二一二) 費用負擔拒絶ノ申立 百六十二丁
  - (二一三) 手数料及立替金確定ノ申請 百六十四丁
  - (二一四) 訴訟費用額確定決定ニ對スル即時抗告 百六十六丁
  - (二一五) 前訴訟費用未濟ノ防訴抗辯 全 丁
- 書類閲覧下付ニ關スル例
- (二一六) 訴訟記録閲覧願 百六十九丁
  - (二一七) 訴訟記録、判決、決定、命令ノ抄本謄本下付願 百七十丁

〇第三章 異例訴訟

和解ニ關スル例

- (二一八) 和解手續 百七十一丁
- (二一九) 和解ノ爲メ相手方ノ呼出ヲ求ムル申立 百七十四丁
- (二二〇) 和解ニ付執行力アル正本ヲ求ムル申立 百七十五丁

督促手續ニ關スル例

- (二二一) 督促手續 百七十七丁
- (二二二) 支拂命令ノ申請(其一) 百八十二丁
- (二二三) 同(其二) 百八十四丁
- (二二四) 支拂命令ニ對スル異議申立 百八十五丁
- (二二五) 支拂命令ニ付スヘキ執行命令ノ申請 百八十六丁
- (二二六) 右申請却下ニ對スル即時抗告 百八十七丁

- (二二七) 執行命令ニ對スル故障申立 百八十八丁
- (二二八) 右申立却下ニ對スル即時抗告 百九十丁
- (二二九) 執行命令故障ニ付原狀回復申立 百九十一丁
- (二三〇) 右申立却下ニ對スル即時抗告 百九十二丁
- (二三一) 執行命令故障棄却ノ申立 百九十三丁
- (二三二) 執行命令故障取下ノ申立 百九十五丁

証書訴訟ニ關スル例

- (二三三) 証書訴訟手續 百九十七丁
- (二三四) 証書訴訟第一審訴狀(其二) 二百〇二丁
- (二三五) 同(其二) 二百〇四丁
- (二三六) 同上答辯書 二百〇五丁
- (二三七) 証書訴訟ヲ罷ムル申立 二百〇六丁

- (二三八) 判決補充ノ爲メ追加裁判ヲ求ムル申立 二百〇七丁
- (二三九) 防禦方法留保ノ判決ニ依リ更ニ訴訟ノ審理ヲ求ムル申立 二百〇八丁

爲替訴訟ニ關スル例

- (二四〇) 爲替訴訟手續 二百十一丁
  - (二四一) 爲替訴訟第一審訴狀 二百十二丁
- 訴訟參加ニ關スル例
- (二四三) 主參加手續 二百十五丁
  - (二四三) 主參加第一審訴狀 二百十七丁
  - (二四四) 訴訟中止ノ申請 二百二十丁
  - (二四五) 訴訟中止ノ決定ニ對スル即時抗告 二百二十一丁

- 〔二四六〕 從參加手續 二百二十三丁
- 〔二四七〕 從參加申請 二百二十七丁
- 〔二四八〕 右申請ニ對スル異議ノ申立 二百二十九丁
- 〔二四九〕 訴訟當事者交替申立 二百三十丁
- 〔二五〇〕 訴訟告知手續 二百三十一丁
- 〔二五一〕 訴訟告知ノ申立 二百三十三丁
- 〔二五二〕 本人指名手續 二百三十四丁
- 〔二五三〕 本人指名ニ付辯論延期抗辯 二百三十六丁
- 〔二五四〕 訴訟當事者交替申立 二百三十七丁

本書ハ實用ヲ主トスルヲ以テ法理ノ解説ヲ爲サス專ラ文例ノ性質適用ヲ示ス然レトモ異例訴訟及強制執行ノ手續ニ至テハ新設ノ規定ナ

ルカ故ニ各文例ノ間ニ於テ其手續ノ概畧ヲ示シ運用ニ便ナラシム  
 文例ノ題目ニ( )ヲ付シタルモノハ實際ノ書面ニ記載セサルモノトス  
 又冒頭記載ノ法條中單ニ何條ト記スルモノハ總テ訴訟法ノ法條ナリ  
 後篇ニ於テハ強制執行、假差押假處分家資分散法及訴訟法ニ附帶セ  
 ル法令ヲ掲載ス

上告再審公示催告等ノ手續ハ總テ之レヲ畧ス

民事訴訟法實例

判事 阿部保二郎君 校閱  
代言人 堀田康人 著述

○裁判管轄ニ關スル例

管轄裁判所指定ノ申請

住所身分職業

申請人 何 某

住所身分職業

相手方 何 某

申請人儀今般右何某ニ對シ何々事件ニ關シ訴訟提起致度候處(以下  
左ノ文詞ニ準シ記載シテ次行ニ接續スヘシ)



印紙二十錢貼用

住所アルハ某府  
郡村字戸番  
等ヲ記スヘキモノ  
ナリ以下總テ此ノ  
ニ同シ



何々ノ理由何々ノ  
事由トアル所實際  
ニ於テハ數十言ヲ  
費ヤスコトアルヘ  
シト雖モ今只其大  
体ノ文例ヲ示スニ  
止マル宜シク詳記  
スヘシ

二

(該事件ニ付權限ヲ有スル某裁判所ハ何々ノ理由ニ因リ裁判權ヲ行  
フコトヲ得ス且裁判所構成法第十三條第二項ニ依リ定メラレタル  
之ニ代ハルヘキ某裁判所モ何々ノ理由ニ依リ此又裁判權ヲ行フ能  
ハサル義ニ付)

(同人住所地ハ何々ノ事由ニ依リ某裁判所ト某裁判所トノ内孰レノ  
區域ニ屬スヘキヤ明確ナラス候ニ付)

(該事件ハ某裁判所ノ管轄ニ屬スル不動産ト某裁判所ノ管轄ニ屬ス  
ル不動産ニ關スルモノニ付)

(\\ \\ \\ \\ \\ \\)

管轄裁判所御指定被下度(裁判所構成法第十條又ハ民事訴訟法第二  
十六條)ニ依リ申請致候也

右

年 月 日 何 某 ○

某(地方裁判所)控訴院長判事何某殿

(二)管轄裁判所指定ノ申請却下ニ對スル抗告

住所身分職業

抗告人 何 某

明治年月日付ヲ以テ住所何某ニ對スル何々事件ニ付管轄裁判所御指  
定方及申請候處年月日申請却下相成レリ然ルニ抗告人ニ於テハ左ノ  
理由ニ依リ御決定ニ服從難致候

\\ \\ \\ \\ \\ \\

本件ハ民事訴訟法第二十八條第二項ニ依リ口頭辯論ヲ經スシテ御決  
定相成タルモノナレハ同法第四百五十五條ニ依リ及抗告候條更ニ相

三

二十八條  
四百五十五條  
印紙五十錢貼用

當ノ御裁判ヲ仰キ度候也

右

某(地方裁判所)控訴院長判事何某殿

二十九條乃至  
三十一條

茲ニ示スモノハ爭  
訟ノ起ラサル前ニ  
於テ管轄ヲ豫約ス  
ル例ナリ爭論ヲ起  
スニ際シテ此合意  
ヲ爲ス場合ニモ亦  
此例ニ準シテ契約  
スヘシ

(三) 裁判管轄ニ付テノ契約(私署証書)

明治年月日付テ以テ我等双方間ニ取結ヒタル何々契約之義ハ双方ニ於テ素ヨリ違背ス可カラサルハ勿論ノ處萬一後日該契約ニ關シ紛議ヲ生スル場合ニ於テハ訴訟法裁判所管轄ノ規定ニ依テス其訴訟ハ某裁判所ニ提出シテ裁判ヲ仰クヘキコトヲ契約ス依テ左ニ記名捺印シタル原本ニ通テ作り双方ニ於テ各一通ヲ領置スルモノ也  
年月日 於某所締約ス

二百六條  
二百七條  
三百七十九條  
四百十四條  
四百八十六條

印紙二十錢貼用

防訴抗辯ニ依リ本  
案ノ辯論ヲ拒ムハ  
地方裁判所第一審  
ノミニ限ル區裁判  
所又ハ控訴ニ在テ  
ハ此抗辯ノ爲メニ  
本案ノ答辯ヲ拒ム  
コトヲ得サルカ故

(四) 管轄違防訴抗辯

何々訴訟ニ對スル防訴抗辯

住所	債權者	住所	債務者
〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃

住所身分職業  
被告 何 某

住所  
原告 何 某

右原告何某ヨリ係ル明治何年( )第何号何々訴狀送達相成候處被告ハ

ニ一般ノ答辯事項  
ト共ニ提出スルヲ  
得ルノミ

六

左ノ理由ニ依リ該訴訟ハ御廳ノ管轄ニ屬セサルモノト信認仕候  
依テ被告ハ本案ニ對シ答辯スヘキ義務無之候間原告ノ請求御却下相  
成度候

右民事訴訟法第二百六條ニ依リ防訴抗辯提出致候也

右

某地方裁判所(民事第何部長)判事何某殿

〔五〕訴訟事件移送ノ申立

住所、

原告

何

某

九條

印紙二十錢貼用

此手續ヲ以テ訴訟  
ノ移送ヲ求ムルト

キハ更ニ訴訟ヲ起  
スノ手數ト費用ヲ  
省クヲ得ヘシ

住所、

被告

何

某

右原告ヨリ差出シタル明治何年(第何号何訴訟ハ御廳ノ管轄ニ屬ス  
ヘキモノニアラストノ論辯ニ付現ニ論争中ニ候處若シ御廳ノ管轄ニ  
アラスト御判定相成候場合ニハ(御管内某區裁判所又ハ御所屬某地  
方裁判所)へ訴訟移送ノ判決ヲ與ヘラレ度候

右民事訴訟法第九條ニ依リ申立候也

右原告

某裁判所(民事第何部長)判事何某殿

七

○判事及書記ノ忌避ニ關スル例

三十三條以下  
四十一條

印紙二十錢貼用

判事及書記カ法律  
ニ依リ除斥ノ事由  
アル場合ニ於ケル  
忌避ノ例

(六)掛判事又ハ書記忌避ノ申請(其二)

住所身分職業

原告  
(控訴人)

何

某

住所

被告  
(被控訴人)

何

某

右當事者間ニ起リタル明治何年( )第何号何々訴訟ニ付御審理中ニ候  
處(判事何某殿又ハ書記何某殿)ハ左ニ疏明スル如ク相手方何某トハ  
何々ノ關係ヲ有スル者ナルヲ以テ民事訴訟法第三十三條ニ依リ忌避  
致度候

〳〳〳〳〳〳(第三十二條ニ示シアル關係ヲ記スヘシ)

右謹而申請致候也

右

某裁判所監督長控訴院長判事何某殿

〔七〕掛判事又ハ書記忌避ノ申請其二

(記名前ニ同シ)

右當事者間ニ起リタル明治何年( )第何号何訴訟御審理中ニ候處今般掛(判事何某殿又ハ書記何某殿)ノ處置上裁判ノ公平ヲ害セラレシトテ恐ルノ事情ヲ發見致候間左ニ疏明仕候

三十三條以下  
四十一條

印紙二十錢貼用

判事及書記カ偏頗ノ恐アル場合ニ於ケル忌避ノ例

依テ民事訴訟法第三十三條ニ依リ該事件ニ付同氏ニ對シ忌避致度候右謹而申請致候也

右

殿

〔八〕忌避申請却下ニ對スル即時抗告

住所

抗告人

何

某

明治何年( )第何号何々訴訟事件係(判事又ハ書記)何某殿ニ對スル忌避年月日及申請候處申請却下ノ旨決定セラレ而シテ此決定ハ年月日送達ヲ受ケタリ然レトモ抗告人ニ於テハ左ノ理由ニ依リ御決定ニ服

三十八條  
四百六十六條  
印紙五十錢貼用

從難致候

依前申請御認許相成度民事訴訟法第三十八條ニ依リ即時抗告致候也

右

某裁判所「監督」長「控訴院長」判事何某殿

○訴訟能力ニ關スル例

〔九〕訴訟能力及法律上代理人欠缺ノ防訴抗辯

住所身分職業

被告 何 某

何々訴訟ニ對スル防訴抗辯

住所

原告 何 某

右後見人

何 某

右原告(何某又ハ何某後見人何某)ヨリ係ル明治何年( )第何号何々訴狀御送達相成候處被告ハ左ノ事實ニ依リ(原告何某ハ訴訟能力ナキ

二百六條  
三百七十九條  
四百十四條  
四百八十六條  
印紙二十錢貼用  
此抗辯ニ依リ本案  
ノ辯論ヲ拒ムハ地  
方裁判所ノ第一審  
ニ於テノミ爲スコ  
トヲ得  
區裁判所及ヒ控訴  
ニ在テハ此ノ抗辯  
ノ爲メニ本案ニ對  
スル答辯ヲ距ムヲ  
得サルヲ以テ一般  
ノ答辯事項ト共ニ  
提出スルモノトス

者ト信認致候又ハ原告何某ノ後見人何某ハ後見人タル資格ナキ者ト  
信認致候ニ付本訴訟ニ向ツテ答辯スヘキ責務無之候間原告請求御  
却下相成度候

右民事訴訟法第二百六條ニ依リ防訴抗辯提出致候也

右

某地方裁判所民事第何部長判事何某殿

〔二〇〕特別代理人任命ノ申請(其一)

住所、

申請人

何

某

四十六條  
四十七條

印紙二十錢貼用

訴訟少起ス前ニ申  
請スル例

住所、

相手方

何

某

強制執行ニ關シ特  
別代理人ヲ申請ス  
ル例ハ強制執行ノ  
部ニ示ス

右何某ニ對シ別紙第何号ノ通り明治年月日何々契約取結置候處右何  
某ハ明治年月日死亡致シ而シテ該契約ハ既ニ年月日限履行スヘキノ  
處在尊終ニ今日ニ至レリ然ルニ(以下左ノ例ニ準シ記入ス)

(該相續人何某ニ對シ出訴致度候得共何某ハ現今何々ニ依リ訴訟能  
力無之者ニシテ)

(該相續人ニ對シ出訴致度候得共別紙何市町村長ノ証明アル戸籍簿  
謄本ノ如ク相續人未定ニシテ)

(該相續人ニ對シ出訴致度候得共別紙何々ノ如ク相續人不分明ニシ  
テ)

且法律上代理人ニ無之候處右契約ハ何々ノ事由(遲滯スルトキハ危害ニ  
陥ルヘキ恐アル事由)

有之右相續人（訴訟能力ヲ得ルマテ又ハ相定マルマテ又ハ分明スルマテ）捨置キ候テハ（權利ヲ失ヒ又ハ請求ノ目的ヲ達スル能ハサル）場合ニ立至ルヘク候間特別代理人ヲ命セラレ度候  
 住所何某ハ何某ノ何々ニシテ現ニ其財産及家事等監理致居候ニ付御参考ノ爲メ此段申立置候  
 右民事訴訟法第四十六條ニ依リ申請致候也

右

某裁判所「監督」長「判事何某殿

四十六條

印紙二十錢貼用

（二）特別代理人任命ノ申請（其二）

住所、、、

訴訟中ニ申請スル例

原告  
（控訴人）

何

某

住所、、、

被告  
（被控訴人）

何

某

右當事者間ニ於ケル明治何年（）第何号何々訴訟御審理中相手方何某ハ何年月日（死亡シタル旨）又ハ何々ニ依リ訴訟能力ヲ失ヒタル旨）通知有之候處該訴訟事件タル何々ノ事由（（通滞スルトキハ危）ニ付該（相續人又ハ法律上代理人）相定ルマテ訴訟手續中斷相成候テハ請求ノ目的ヲ達スル能ハサル場合ニ立至ルヘク候間特別代理人ヲ命セラレ度候

住所何某ハ何某ノ何々ニシテ現ニ其家事ヲ管理致居候ニ付御参考ノ爲メ申立置候  
 右民事訴訟法第四十六條ニ依リ申請致候也



右

某裁判所(控訴院)民事第何部長(判事何某殿

(一二)特別代理人任命ノ申請却下ニ對スル抗告

住所

抗告人

何

某

四十六條  
四百五十五條  
印紙五十錢貼用

明治何年(第何号何訴訟ニ關シ相手方何某ニ對スル特別代理人任命  
之儀年月日及申請候處年月日申請御却下相成レリ然レトモ抗告人ニ  
於テハ左ノ理由ニ依リ御決定ニ服從難致候

依テ前申請御認許相成度民事訴訟法第四十六條ニ依リ及抗告候也

右

某裁判所(監督)長(控訴院長)判事何某殿

○訴訟代理人及輔佐人ニ關スル例

六十三條以下

辯護士ニ委任スル例

辯護士トアル所ハ  
當分ノ内代理人ト  
記スヘシ以下總テ  
之ニ同シ

(二三) 訴訟代理委任狀(其二)

証 券  
印 紙  
一 錢

自分儀住所身分職業何某ニ對シ何々訴訟提起致候ニ付住所辯護士何  
某ニ訟訴代理ヲ委任ス

住所身分職業(何某

後見人)

何 某

六十三條以下

辯護士ニアラサル者ニ委任スル例

訴訟法ニ於テ親族ト稱スル者ハ當分ノ内刑法ノ親族例ニ依ルモノトス（施行條例第九條）

訴訟代理人ノ權限ハ第六十五條ニ定メラレタルヲ以テ若シ該條ニ示スモノヲ増減スルトキハ但書ノ如ク附記スヘシ

六十九條  
百八十三條

本人カ訴訟能力ヲ

失ヒ又ハ死亡シタルトキ後見人カ後見ヲ止メタルトキ又ハ死亡シタルトキ通知ノ例

印紙不要

〔二四〕訴訟代理委任狀(其二)

廿二

自分儀住所身分職業何某ニ對シ何々訴訟提起致候處何々ノ事故ニ依リ自身此事務ニ專從シ難ク且某裁判所ニ於テハ辯護士無之依テ（親族又ハ雇人）タル住所何某ニ訴訟代理ヲ委任ス

但何々ノ事項ニ關スルモノハ委任ノ限ニアラス

住所、

〔二五〕代理委任消滅通知ノ上申

住所、何某(辯護士)又ハ

訴訟代理人

住所

何 某

明治何年(第何号何訴訟事件ニ關スル(原告又ハ被告又ハ、)何某ハ明治年月日(死亡致シ又ハ何々ニ依リ訴訟能力ヲ失ヒ又ハ何々ニ依リ後見人相止メ)候ニ付從テ自分へ委任セラレタル訴訟代理權消滅致候條相手方住所何某へ通知致度民事訴訟法第六十九條ニ依リ此段上申致候也

右

某裁判所(控訴院)民事第何部長(判事)何某殿

廿三

六十九條

委任者ヨリ委任ヲ  
解キタルトキ又ハ  
代理者ヨリ委任ヲ  
辭シタルトキ通知  
ノ例

(二六)代理委任消滅通知ノ上申(其二)

住所

何 某

明治何年( )第何号何訴訟事件ニ關シ前記ノ者へ訴訟代理委任致置候  
處(年月日委任ヲ廢罷致シ又ハ年月日同人ヨリ委任ヲ謝絶致シ)候ニ  
付相手方何某へ通知致度民事訴訟法第六十九條ニ依リ此段上申致候  
也

住所

原告又ハ  
〇

某裁判所(控訴院)民事第何部長(判事)何某殿

七十一條

印紙不要

(二七)輔佐人願

住所

何 某

明治何年( )第何号何訴訟事件ニ關シ(原告又ハ被告又ハ)ハ(訴  
訟代理人ニ依頼スル能ハサル事情有之又ハ何々ニ付)自身出廷致シ  
候處辯論上必要ニ付前記ノ者ヲ以テ輔佐人ト致度候間御許可被下度  
民事訴訟法第七十一條ニ依リ上願致候也

住所

原告又ハ  
〇

某裁判所(控訴院)民事第何部長(判事)何某殿

○訴訟上救助ニ關スル例

九十三條  
九十四條

第一審ニ於テ申請  
スル例

印紙二十錢貼用

〔二八〕訴訟上救助ノ申請(其二)

住所身分職業

申請人

何

某

相手方

何

何

某

申請人儀今般右何某ニ對シ訴訟ヲ提起致度候處貧窮ニシテ訴訟費用  
ヲ辨シ難ク候ニ付第一審並ニ強制執行共ニ訴訟上ノ救助御許可相成  
度左ニ其關係及證據方法致開陳候

訴訟關係

例ハハ申請人ハ何年月日ヨリ何日マテ右何某所有某所ノ

家根瓦修繕ノ手間賃金何圓何錢ノ支拂ヲ請求セシ處何某ハ其辨濟ヲ拒ミタリ云々ト記スルカ如シ

證據方法

申請人ハ住所何某ヲ以テ其証人致スヘク候  
依テ某市町村長ノ証明書相添民事訴訟法第九十三條及第九十四條ニ依リ申請仕候也

右

某裁判所「監督」長「判事何某殿

九十三條  
九十四條

第二審ニ於テ申請

〔二九〕訴訟上救助ノ申請(其二)

住所

スル例

印紙二十錢貼用

控訴人又ハ

何

某

被控訴人

何

某

(控訴人又ハ被控訴人)儀今般右(何某ニ對スル何々訴訟ニ付控訴提起致度又ハ何某ヨリ何々訴訟ニ付控訴セラレ)候處貧窮ニシテ訴訟費用ヲ辨シ難ク候ニ付訴訟上ノ救助御許可相成度左ニ其關係及證據方法致開陳候

訴訟關係

(例)ハ某裁判所ニ於テ言渡サレタル明治何年( )第何号何訴訟判決ニ對シ云々ト記スルカ如シ

證據方法

證明書ハ第一審ニ於テ救助ヲ受ケルル場合ニ差出ヌモノナリ

〔依テ某市町村長ノ證明書相添又ハ「右御救助ハ第一審ニ於テモ相受候ニ付第二審ニ於テモ同様御許可相成度」民事訴訟法第九十三條第九十四條ニ依リ申請仕候也

右、

某地方裁判所〔控訴院〕長判事何某殿

〔二〇〕資力證明書

住所

何 某

九十一條  
九十三條

右之者今般訴訟上救助申請ニ付本人ノ願ニ依リ左ノ證明ヲ與フ  
一 本人ノ身分職業、  
一 本人ノ財産ノ實況、  
一 本人ノ家族ノ實況、  
一 納ムル所ノ直税ノ額、  
一 前諸項ノ有様ナルカ故ニ訴訟費用ヲ支拂ハシムルニ於テハ自己及其家族ノ必要ナル生活ヲ害スルモノト認ム

右證明候也

某府縣郡市町村長何某 □

此等ノ證明事務ヲ區長ニ委任シアル市町村ニ於テハ區長之ヲ證明ス

百二條第一項  
四百五十五條

此抗告ハ檢事ニ限リ爲スモノナリ

〔二一〕訴訟上救助付與ノ決定訴訟上救助ノ取消ヲ拒ム決定  
〔訴訟上救助額追拂ヲ命スルコトヲ拒ム決定〕ニ對スル

抗告

住所、

何 某

右之者ニ對シ明治何年( )第何号何々訴訟ニ付( )年月日訴訟上救助ヲ付與セラレ又ハ( )年月日付與セラレタル訴訟上救助ノ取消ヲ拒絕セラレ又ハ( )年月日付與セラレタル訴訟上救助額ノ追拂ヲ命スルコトヲ拒絕セラレ( )ダレトモ本官ニ於テハ左ノ理由ニ依リ不當ノ決定ト思量セリ

〳〳〳〳〳〳

依テ何様決定相成度民事訴訟法第百二條第一項ニ依リ及抗告候也

某裁判所又ハ控訴院

檢事 何 某 □

某裁判所監督長( )控訴院長( )判事何某殿

百二條第三項  
四百五十五條

印紙五十錢貼用

此抗告ハ申請人ニ  
リ爲スモノナリ

(三三) 訴訟上救助拒絕ノ決定( )訴訟上救助取消ノ決定( )訴訟

上救助額追拂ヲ命セラレタル決定( )ニ對スル抗告

住所( )

抗告人 何 某

明治何年( )第何号何々訴訟事件ニ關シ( )年月日ノ訴訟上救助申請御認許不相成旨年月日決定セラレ候處( )又ハ( )年月日付與セラレタル訴訟上ノ救助年月日取消ノ旨決定セラレ候處( )又ハ( )年月日以來御救助相成タル數額追拂ヲ命スル旨決定セラレ候處( )抗告人ハ左ノ理由ニ依リ御決定ニ服從難致候

〳〳〳〳〳〳

依テ(前申請御認許相成度又ハ該御決定御取消相成度)民事訴訟法第百二條第三項ニ依リ及抗告候也



右

某裁判所監督長(控訴院長)判事何某殿

(三三) 辯護士附添ノ申請

住所 \ \ \

申請人

何

某

申請人儀明治何年(第何号何々訴訟ニ關シ赤貧ノ故ヲ以テ年月日訴訟上救助御認許相成候處該訴訟權利保護上自分ニ於テ不行屆候間民事訴訟法第九十七條末項ノ御旨趣ニ依リ一時無報酬ニテ適當ノ辯護士御附添被下度此段謹而申請致候也

右

九十七條  
印紙不要

此場合ニ於テ附添  
ヲ命セラレタル辯  
護士ハ(一)(二)(三)ノ  
例ニ依リ相手方ヲ  
立替金手数料ヲ請  
求スルヲ得ヘシ

百二條第三項  
四百五十五條  
印紙ヲ要セス

某裁判所(控訴院)(民事第何部長)判事何某殿

(三四) 辯護士附添ノ申請却下ニ對スル抗告

住所 \ \ \

抗告人

何

某

明治何年(第何号何々訴訟事件ニ關シ辯護士附添之義及申請候處年月日申請認許セサル旨決定セラレタリ然レトモ抗告人ハ左ニ再陳スル理由ニ付更ニ相當ノ御審理ヲ遂ケラレ前申請御認許被下度候

右民事訴訟法第百二條第三項ニ依リ抗告致候也

右

某裁判所「監督」長「控訴院長」判事何某殿

○假住所届ニ關スル例

(三五) 假住所届

住所身分職業

原告又ハ被告又ハ何々(何某

後見人)

何 某

住所、、、

原告又ハ何々何某

辯護士  
(訴訟代理人)

何 某

右假住所 何市町村戸番何某方止宿

明治何年(第何号何々訴訟事件ニ關シ假住所及御届候也

百四十三條

印紙不要

強制執行ニ關シテ  
差出スモノハ強制  
執行ノ部ニ出ス

某裁判所(控訴院)民事第何部長(判事)何某殿

右

卅八

○訴狀ニ關スル例

(三六)(第一審訴狀其一)

住所身分職業

原告

何

某

住所身分職業

右辯護士

何

某

賣買代金請求之訴

住所身分職業

被告

何

某

一定ノ申立

原告ハ被告ヨリ賣掛代金何十圓ヲ支拂フヘキ様御判決ヲ請フ爲メ茲

卅九

百九十條  
三百七十三條  
三百七十四條  
印紙ハ印紙法第一  
條乃至第三條ニ依  
ル  
區裁判所ニ於テハ  
口頭ヲ以テ訴ヲ爲  
スヲ得

ニ本訴ヲ提起致候

(若シ假執行ノ宣言ヲ求ムルトキハ「九一」ノ例ヲ折中シテ茲ニ記載スヘシ)

請求ノ原因

原告ハ附屬書類第何号計算書ノ如ク明治年月日何々ノ物品ヲ被告ニ賣渡シ且既ニ其物品ヲ引渡シタリ然ルニ約定期日ヲ過クルモ代金ヲ仕拂ハス

證據方法

原告ハ付屬書類甲第何号ヲ以テ其物品ヲ引渡シタルユトシ證據立ツヘシ

(答辯書差出期日又ハ口頭辯論期日ノ短縮ヲ請フヘキ事情アルトキハ茲ニ記載スヘシ)

原告辯護士ハ別紙委任狀ヲ以テ其資格ヲ證明致候  
右謹而訴訟仕候也

右原告何某辯護士

何 某 ○

某裁判所(監督)長(判事)何某殿

(二七)(第一審訴狀其二)

住所、、、

原告 何 某

住所、、、

右訴訟代理人何 某

買受物引渡請求之訴

住所 \\ \\

被告

何

某

一定ノ申立

一何々何程 但此賣買代金何十圓

原告ハ被告ヨリ前記買受物品ヲ引渡シ（且引渡遲滞ノ爲メニ生シタル損害賠償トシテ金何程仕拂）候様御判決ヲ請フ爲メ本訴ヲ提起致候

請求ノ原因

原告ハ附屬書類甲第何号計算書ノ通明治年月日何々物品ヲ被告ヨリ買受ケ且既ニ其代金ヲ支拂ヒタリ然ルニ其後屢々督促スルモ物品引渡ヲ履行セス

證據方法

原告ハ付屬書類甲第何号ヲ以テ其代金ヲ仕拂ヒタルコトヲ証明スヘシ

原告代理人ハ別紙委任狀ヲ以テ其資格ヲ証明致候  
右謹而訴訟仕候也

右原告何某訴訟代理人

殿

（二八）第一審訴狀其三

原告

何

某

貸金請求之訴

右後見人

被告

一定ノ申立

一金ノノノ

貸付元金

一金ノノノ

利息

合計金ノノノ

原告ハ被告ヨリ前記金額ヲ辨済スヘキ様御判決ヲ請フ爲メ本訴ヲ提起致候

請求ノ原因

原告ハ明治年月日被告ニ年(月)何程ノ利息ニテ金何百圓ヲ貸渡シ且

明治年月日限リ辨済スヘキコトヲ約シタリ然ルニ期日ニ至ルモ返金セズ數回督促スルモ荏苒終ニ今日ニ至レリ

證據方法

原告ハ此レヲ證明スルニ附屬書類甲第何号ヲ以テス可シ

原告後見人ハ別紙後見證明書ヲ以テ其資格ヲ證明致候

右謹而訴訟仕候也

右原告後見人

殿

(三九)第一審訴狀其四

住所ノノノ

原告

右後見人

右訴訟代理人  
又ハ辯護士

家賃請求之訴

被告

一定ノ申立

原告ハ被告ヨリ家賃滞金何圓ヲ辨濟スヘキ様御判決ヲ請クル爲メ本訴ヲ提起致候

請求ノ原因

原告ハ明治年月日被告ニ何郡市町村番戸家屋又ハ倉庫ヲ貸渡シ家賃ハ年(月)金、ハトシ毎月何日又ハ毎年何月日限り支拂フモノトシ明治年月日マテヲ貸渡期間ト爲セリ然ルニ何年月日以来付屬書用第何号計算書ノ通り家賃ヲ仕拂ハス

証據方法

原告ハ別紙付屬書類甲第何号ヲ以テ之ヲ証明致候  
原告後見人何某ハ何々証明書ノ如ク後見人タル資格アルモノニシテ且辯護士何某又ハ代理人何某ハ別紙委任狀ヲ以テ其資格ヲ証明致候  
右謹而訴訟仕候也

右原告後見人何某辯護士

又ハ訴訟代理人

殿

(三〇)第一審訴狀其五

貸家明渡請求之訴

原告

被告

右後見人

一定ノ申立

原告ハ被告ニ於テ某府縣某郡町村戸番ノ家屋ヲ明渡シ且未濟家賃金

何程ヲ辨濟スヘキ様御判決ヲ請フ爲メ茲ニ本訴ヲ提起仕候且此御判  
決ニハ民事訴訟法第五百二條第一項ニ依リ假執行ノ宣言ヲ付セラレ  
度候

請求ノ原因

被告何某ハ原告ヨリ某府縣郡市町村何番戸家屋ヲ借受ケ現ニ住居  
(又ハ使用)致候處右貸借期間ハ明治年月日ヨリ年月日マテニシテ家  
賃何程宛毎年何月日(又ハ毎月何日)限り支拂フモノトシ期日ニ至リ  
之ヲ支拂ハサルトキハ原告ハ直チニ明渡ヲ請求スルヲ得ヘキコトヲ  
契約セリ然ルニ被告ハ右期日ニ至ルモ家賃ヲ仕拂ハス

證據方法

原告ハ付屬書類甲第何号ヲ以テ之ヲ証明致候  
右謹而訴訟仕候也



右

殿

（三一）第一審訴狀其六

原告

原告

婿養子離縁之訴

被告

養子縁組離縁及婚姻離婚ニ關スル訴ニ付テハ特別ノ慣例アルモノハ當分ノ内其慣例ニ從テ（施行條例第十條）

一定ノ申立

原告等ハ被告ヲ離縁シ及離婚スルコトノ御判決ヲ仰カン爲メ茲ニ本訴ヲ提起仕候

請求ノ原因

原告何某ハ何年月日被告ヲ婿養子トシ原告何某ハ同時ニ被告ト結婚シタリ而ルニ被告ハ其後原告何某ニ對シ暴虐ノ所爲ヲ加フルノミナラス年月日以來原告等ニ協議ヲモ遂ケス擅マヽニ某府縣郡市町村ニ別居シ原告等ヲ遺棄シタリ

證據方法

原告ハ此等ノ事實ヲ證明スル爲メ別紙付屬書甲第何号戸籍簿謄本ヲ提供シ且住所何某何某ヲ証人トシテ差出スヘク候  
右謹而訴訟仕候也

右

殿

〔三三〕(第二審訴狀控訴)

住所身分職業

控訴人

何々訴訟判決ニ對スル控訴

被控訴人

右當事者間ニ起リタル何々訴訟ニ對シ明治年月日某裁判所ニ於テ言

四百二條  
八十二條

印紙ハ印紙法第五  
條ニ依ル

代理人辯護士後見  
人等ニ關スル例及  
假執行口頭辯論期  
日答辯書差出期日  
等ノ例ハ總テ前ニ  
示シタルモノヲ參  
照スヘシ

渡サレタル判決ハ不當ノ御裁判ト思量候ニ付控訴仕候

前判決ニ對スル不服ノ定度及變更ヲ求ムル一定ノ申立

〳〳〳(假ヘハ控訴人ハ前判決中何々ノ点ニ付不服又ハ前判決全体  
ニ對シ不服ナルニ依リ何様ノ御判決ヲ仰キ度候ト記スルカ如シ)〳〳

又假執行及訴訟費用ノ事ニ關シテ申立ツルコトアラハ併セテ記載ス

ヘシ

新々ニ主張スル事實及証據方法

右謹テ控訴仕候也

右

某地方裁判所(控訴院)長判事何某殿

(三三) 訴狀差戻ニ對スル即時抗告(其二)

住所 \ \ \

抗告人 何 某

百九十二條  
三百七十三條  
四百六十六條  
第一審ニ於テ爲ス  
抗告ノ例  
印紙五十錢貼用

明治年月日抗告人ヨリ差出シタル何々訴狀ニ對シ(裁判長又ハ掛判事)何某殿ヨリ年月日欠缺補正命令ヲ發セラレ候處何々ノ事由ニ依リ右命令ニ定メラレタル期日ヲ經過シ該訴狀ハ終ニ何年月日差戻サレタリ然レトモ抗告人ハ左ノ理由ニ依リ此差戻ニハ服從難致候  
依テ該訴狀其儘御受理有之度民事訴訟法第九十二條ニ依リ即時抗告致候也

右

某裁判所監督長判事何某殿

(三四) 訴狀差戻ニ對スル即時抗告(其二)

(記名前ニ同シ)

明治年月日抗告人ヨリ差出シタル何々事件ノ訴狀(裁判長又ハ掛判事)何某殿ノ命令ヲ以テ年月日却下セラレ而シテ此命令ハ何月日送達ヲ受ケタリ然レトモ抗告人ニ於テハ左ノ理由ニ依リ御命令ニ服從難致候

依テ訴狀其儘御受理相成度民事訴訟法第四百二條ニ依リ即時抗告致

四百二條  
四百六十六條  
第二審ニ於テ差出  
ノ例  
印紙五十錢貼用

候也

右

某地方裁判所(控訴院長判事何某殿

〔三五〕訴取下ノ申立(其二)

住所

原告  
(控訴人)

被告  
(被控訴人)

明治年月日右何某ニ對シ何訴訟提起致候處都合ニ依リ(該訴訟ノ全部又ハ該訴訟中何々ノ事項)取下致度民事訴訟法(第九十八條又ハ

百九十八條  
三百七十三條  
三百七十四條  
三百九十九條

辯論前ニ取下クル例

印紙二十錢貼用

區裁判所ニ於テハ口頭ヲ以テ申立ツルコトヲ得

第三百九十九條)ニ依リ此段申立候也

右

某裁判所(監督長(控訴院長)判事何某殿

〔三六〕訴取下ノ申立(其二)

(記名前ニ同シ)

明治年月日右何某ニ對シ何々訴訟提起致シ既ニ口頭辯論開始相成候處都合ニ依リ(該訴訟ノ全部又ハ該訴訟中何々ノ事項)取下致度民事訴訟法第九十八條ニ依リ被告何某ノ承諾ヲ得候間連署ヲ以テ此段申立候也

右

百九十八條  
三百七十三條  
三百七十四條

辯論開始後ニ取下クル例

印紙二十錢貼用

殿

〇

○答辯書ニ關スル例

(三七)第一審答辯書

住所身分職業

被告

何

某

右後見人

右  
辯護士  
(訴訟代理人)

住所身分職業

原告

何々訴訟ニ對スル答辯

百九十九條  
二百一條  
三百七十九條  
三百七十三條  
印紙二十錢貼用

答辯書ハ被告ヨリ  
請求スルニアサ  
レハ原告ニ送達セ  
サルモノナリ故ニ  
被告ニ於テ送達ヲ  
望ムトキハ其旨ヲ  
申立ヘシ

原告何某ヨリ差出シタル明治何年( )第何号何々訴訟狀送達相成候ニ  
付左ニ答辯致候

\\ \\ \\ (相手方ノ事實上ノ主張並其證據方法ニ對スル陳述及其証  
明又ハ攻撃ノ爲メニ用ヰントスル證據方法等ヲ記スヘシ) \\ \\ \\

(又反訴ヲ申立ツヘキ事實アレハ其事實及證據方法等ヲ記スヘシ)

(又區裁判所ニ在テハ訴訟法第三百七十九條ニ依リ防訴抗辯ヲモ併

セテ記載スヘシ)

依テ被告ハ \\ \\ \\ (原告ノ請求ニ應スル能ハサル旨ノ申立又ハ何  
々ノ点ヲ何様ニ判決アラントヲ望ム等一定ノ申立ヲ記スヘシ) \\

(假執行ノ宣言ニ關シ申立ツルコトアラハ(九二)ノ例ヲ折中シテ茲  
ニ記載スヘシ)

被告(後見人又ハ辯護士又ハ訴訟代理人)ハ別紙證明書又ハ委任狀ヲ  
以テ其資格ヲ證明致候  
右謹而答辯仕候也

右 \\ \\ \\

某裁判所(民事第何部長)判事何某殿

(三八)(第二審答辯書)

住所 \\ \\ \\

被控訴人 何 某

何々訴訟控訴ニ對スル答辯

住所 \\ \\ \\

四百四條  
四百五條  
四百十四條  
印紙二十錢貼用

控訴人 何 某

控訴人何某ヨリ差出シタル明治何年( )第何号何々訴狀送達相成候ニ付左ニ致答辯候

\\ \\ \\ \\ (第一審ノ判決ヲ正當トスル旨ノ陳述及ヒ控訴人ヨリ提出シタル新タナル事實證據方法等ニ對スル辯明ヲ記スヘシ) \\ \\ \\ \\

(又反訴又ハ附帶控訴ヲ爲スヘキモノ若クハ新タナル事實及證據方法等アラハ之ヲ記スヘシ)

(又訴訟法第四百十四條ニ依リ提出スルヲ得ル防訴抗辯アラハ此レヲモ記スヘシ)

上來ノ理由ナルヲ以テ被控訴人ハ \\ \\ \\ \\ (控訴ヲ棄却アリタキ旨ノ申立其他一定ノ申立ヲ記スヘシ又假執行ノ宣言ニ付申立ツルコトアラハ(九二)ノ例ニ倣ヒ記載スヘシ) \\ \\ \\ \\

右謹而答辯仕候也

右

某地方裁判所(控訴院)民事第何部長(判事)何某殿

○防訴抗辯ニ關スル例

防訴抗辯ノ例ハ裁判管轄、訴訟能力、訴訟費用ニ關スル部ニ於テモ之ヲ示セリ茲ニ示スモノハ一般ノ例ナリ

(三九)防訴抗辯

住所身分職業  
被告 何 某

何々訴訟ニ對スル防訴抗辯

住所  
原告

原告何某ヨリ差出シタル明治何年( )第何号何々訴狀送達相成候處被告ハ左ノ理由ニ依リ防訴抗辯提出致候

\\ \\ \\ \\ (無訴權又ハ權利拘束等其他訴訟法第二百六條ノ抗辯理由

二百六條  
三百七十九條  
四百十四條  
印紙二十錢貼用

防訴抗辯ヲ以テ本案ノ辯論ヲ拒ムヲ得ルハ地方裁判所ノ第一審ノミニ限ル其他ノ裁判所ニ於テハ通常答辯書中ニ記スヘキモノトス



ヲ記スヘシ  
依テ被告ハ本案ニ對シ答辯スヘキ責務無之候間原告ノ要求御却下相成度候

右民事訴訟法第二百六條ニ依リ答辯仕候也

右

某地方裁判所民事第何部長判事何某殿

二百七條

印紙二十錢貼用

區裁判所ニ於テハ口頭ヲ以テ申立ツルコトヲ得

(四〇) 本案ノ辯論ヲ求ムル申立

住所

原告

住所

被告

明治何年( )第何号何訴訟ニ對シ被告何某ヨリ防訴抗辯提出候得共原告ハ左ノ理由ニ依リ本案ニ付テノ辯論ヲ命セラレシコトヲ希望致候  
右民事訴訟法第二百七條ニ依リ申立候也

右原告

某地方裁判所民事第何部長判事何某殿

○反訴ニ關スル例

〔四一〕反訴申立

住所身分職業

被告  
(被控訴人) 何 某

住所 何 某

原告  
(控訴人) 何 某

原告又ハ控訴人何某ヨリ係ル明治何年( )第何号何々事件ニ對シ左ノ

反訴ヲ提出致候

〳〳〳〳(反訴スヘキ事實及其證據方法並其權利關係ニ依リ本案ニ對スル一定ノ申立ヲ記スヘシ)〳〳〳〳

(右ハ答辯書差出ノ期間内ニ提起可致答ノ處何々ノ事由「自己ノ過

二百一條  
二百一十一條  
二百七十三條  
三百七十四條  
四百八條  
印紙ハ印紙法第四  
條ニ依ル  
反訴申立ハ答辯書  
中ニ記スルヲ通例  
トス然レモ後ニ至  
リ申立ツルトキハ  
此例ニヨルモシ  
區裁判所ニ於テハ  
口頭ヲ以テ申立ツ  
ルヲ得ヘシ

先ニアラスシテ其當時提出スルヲ得サリシ事情ニ依リ差出ス能ハサル義ニ有之候依テ民事訴訟法第二百一條第二項ニ依リ申立候)

(右ハ本訴訟進行中争ヒトナリタルモノニ付民事訴訟法第二百一十一條ニ依リ申立候)

此段謹而及反訴候也

右

某裁判所(控訴院)民事第何部長(判事何某殿

○附帶控訴ニ關スル例

四百五條

印紙二十錢貼用

答辯書ニ於テ附帶控訴ノ申立ヲ爲スヲ通例トスレトモ若シ其當時差出ス能ハサルトキハ後ニ至リ此例ニ依リテ申立ヘシ

〔四二〕何々訴訟ニ關スル附帶控訴ノ申立

住所身分職業

被控訴人

何

某

控訴人

控訴人何某ヨリ某裁判所ノ判決ヲ不當トシ何々訴訟御廳ニ及控訴候ニ付之ニ對スル答辯書ハ既ニ致奉呈候得共被控訴人ハ更ニ某裁判所判決中左ノ事項不服ニ付致控訴候

右民事訴訟法第四百五條ニ依リ附帶控訴ヲ以テ申立候也

右

某地方裁判所(控訴院)民事第何部長判事何某殿

○公示送達ニ關スル例

(四三) 公示送達ノ申請

住所身分職業

何 某

明治何年(第何号何訴訟事件ニ關シ右之者ニ對シ送達スヘキ何々書類ハ同人儀目下現在地知レサルニ付公ノ告示ヲ以テ御送達相成度民事訴訟法第一百五十七條ニ依リ此段及申請候也

右原告又ハ、ハ、ハ、

住所

何 某

某(裁判所)(控訴院)(民事第何部長)判事何某殿

百五十七條  
印紙二十錢貼用

○證據調ニ關スル例

〔四四〕人証鑑定ヲ求ムル申立

明治何年( )第何号何々訴訟ニ付左ノ事項ニ關シ(人証ヲ以テ証明致  
度又ハ鑑定ヲ求メ度)候間民事訴訟法第二百七十四條ニ依リ證據決  
定ヲ以テ御命令相成度候也

- 一 証言又ハ鑑定ヲ求ムル事實ハ何々
- 一 証人又ハ鑑定人トシテ住所何某ヲ指名致候

右、

何

某

○

某裁判ニ所控訴院(民事第何部長)判事何某殿

二百九十一條  
二百二十三條  
三百七十三條  
三百七十四條  
四百八條

印紙五十錢貼用

區裁判所ニ於テハ  
口頭ヲ以テ申立ッ  
ルコトヲ得

二百九十五條  
三百二十二條  
三百七十三條  
四百八條  
印紙ヲ要セズ

〔四五〕不參屆

住所身分職業

何 某

自分儀何事件証人又ハ鑑定人トシテ本月何日御廳へ出頭可致旨御達  
相成候處何々ノ事故ニ依リ同日出頭難致候間此段及御届候也

右

某裁判所ノ控訴院ノ民事第何部長判事何某殿

〔四六〕罰金賠償取消ノ申請

住所ノノノ

何 某

二百九十五條  
三百二十二條  
三百七十三條  
四百八條

証人鑑定人不參ノ  
爲メ罰金又ハ賠償  
ヲ言渡サレタルト  
キ取消ヲ求ムル例  
印紙二十錢貼用

自分儀証人又ハ鑑定人トシテ何月何日御廳エ出頭ノ呼出ヲ受ケナカ  
ラ正當ノ理由ナクシテ出頭セサル者トシテ罰金及ヒ費用賠償致スヘ  
キ旨年月日言渡相成候處右ハ全ク何々ノ事由ニ依リ不參致シタル義  
ニ候間該御決定御取消相成度此段申請仕候也

右

（宛名前例ニ同シ）

〔四七〕証言鑑定ニ宣誓拒絶ノ申立

（記名前ニ同シ）

自分儀今般住所何某ト住所何某トノ間ニ起リタル何々事件ニ付（証  
言又ハ鑑定）又ハ証言鑑定ノ爲メノ宣誓ニ被命候處何々ノ事由ニ依

三百條  
三百九條  
三百二十二條  
三百七十三條  
四百八條  
印紙二十錢貼用

リ御命令ニ難應候

右民事訴訟法第三百條ニ依リ拒絶申立候也

右

〔宛名前例ニ同シ〕

〔四八〕証言鑑定ニ宣誓拒絶ニ對スル決定ニ付即時抗告

住所、、、

抗告人 何 某

三百一條  
三百九條  
三百二十二條  
四百五十七條  
四百六十六條  
三百七十三條  
四百八條  
此レハ拒絶人ヨリ  
抗告スル例ナリ若  
シ當事者ヨリ抗告  
スル必要アラハ此  
ニ準シテ作ルヘシ

今般何某ト何某トノ間ニ起リタル何事件ニ關スル(証言又ハ鑑定又ハ証言鑑定ノタメノ宣誓)可致旨御命令ニ對シ民事訴訟法第三百條ノ規定ニ依リ拒絶申立候處右申立ハ拒絶ノ理由ナキモノト決定セラ

印紙五十錢貼用

レ而シテ此決定ハ年月日送達ヲ受ケタリ然レトモ抗告人ニ於テハ左ノ理由ニ依リ御決定ニ服從難致候

、、、、、

依テ民事訴訟法第三百一條ニ依リ即時抗告致候間前申立御採納相成度候也

右

某裁判所「監督」長「控訴院長」判事何某殿

〔四九〕賠償「罰金」ノ言渡ニ對スル抗告

(記名前ニ同シ)

明治年月日何某ト何某トノ間ニ起リタル何事件ニ關スル(証言又ハ

三百二條  
三百九條  
三百二十二條  
四百五十七條  
三百七十三條  
四百八條

印紙五十錢貼用

鑑定又ハ証言鑑定ノ爲メノ宣誓(拒絕ニ對シ民事訴訟法第三百二條ニ依リ費用賠償及罰金ヲ言渡サレタリ然レトモ抗告人ニ於テハ何々ノ理由ニ依リ御決定ニ服從難致候間同第三百二條第二項ニ依リ及抗告候條前御決定御取消有之度候也

右

(宛名前ニ同シ)

(五〇)証人鑑定人忌避ノ申請

住所

何 某

右之者明治何年( )第何号何訴訟ニ關シ(証人トシテ相手方ヨリ指名

三百三條  
三百四條  
三百二十二條  
三百七十三條  
三百七十四條  
四百八條

印紙二十錢貼用

區裁判所ニ於テハ口頭ヲ以テ申請スルヲ得

証人鑑定人訊問後ニ至リ申請スルトキハ下ノ如ク附記スヘシ

致又ハ鑑定人トシテ御指名相成(候處同人ハ何某ト何々ノ關係(訴訟法第二百九十七條ノ關係ヲ記ス)有之者ニ付忌避致度候(此申請ハ御訊問前ニ提出可致答ノ處何々ノ事由ニ依リ其當時忌避ノ原因ヲ主張スルヲ得サリシ次第ニ有之候)右民事訴訟法第三百三條及第三百四條ニ依リ申請仕候也

右

某裁判所(控訴院)民事第何部長(判事)何某殿

(五一)証人鑑定人忌避ノ申請却下ニ對スル即時抗告

(記名前ニ同シ)

明治何年( )第何号何訴訟ニ關シ右ノ者ニ對スル(証人又ハ鑑定人)忌

三百五條  
三百二十二條  
四百六十六條  
三百七十三條  
四百八條

印紙五十錢貼用



避之義年月日申請仕候處申請理由ナキ旨決定セラレ而シテ此決定ハ年月日送達ヲ受ケメリ然ルニ抗告人ニ於テハ左ノ理由ニ依リ御決定ニ服從難致候

依テ前申請御許容相成度民事訴訟法第三百五條第三項ニ依リ即時抗告仕候也

右、

抗告人

某裁判所「監督」長「控訴院長」判事何某殿

〔五二〕人証「鑑定」拋棄ノ申立

明治何年（）第何号何々訴訟何々ノ事項ニ關シ（人証又ハ鑑定）申立置

三百二十條  
三百二十二條  
三百七十三條

三百七十四條  
四百八條

印紙二十錢貼用

區裁判所ニ於テハ口頭ヲ以テ申立ツルコトヲ得

候處（都合ニ依リ又ハ相手方何某ノ承諾ヲ得）該申立ヲ拋棄致候  
右民事訴訟法第三百二十條ニ依リ（相手方連署ヲ以テ）申立候也

右、

〇  
〇

某裁判所「控訴院」民事第何部長（判事何某殿

〔五三〕日當旅費及立替金請求書

一金 日當

但何月何日ヨリ何日迄何日分

一金 旅費

但、

三百二十一條  
三百三十二條  
三百七十三條  
三百七十四條  
四百八條

印紙ヲ要セス

區裁判所ニ於テハ口頭ヲ以テスルコトヲ得

一金

立替金

但、

合計金、

今般何某何某間ニ起リタル何訴訟証人又ハ鑑定人トシテ御呼出相成  
本日ヲ以テ御訊問終結致候ニ付テハ右金額直ナニ御拂渡相成度及請  
求候也

住所、

(宛名前ニ同シ)

〔五四〕証書提出ヲ求ムル申立

明治何年( )第何号何々訴訟ニ關シ(原告又ハ被告又ハ控訴人又ハ被

三百三十五條乃至  
三百三十八條  
三百七十三條  
三百七十四條

四百八條

印紙二十錢貼用

區裁判所ニ於テハ  
口頭ヲ以テ申立ル  
ヲ得

控訴)人ニ於テ使用セント欲スル何々証書ハ相手方何某ノ手ニ存在  
致候間同人エ該証書提出方御命令相成度依テ左ニ其事由ヲ開陳致候  
、、、、(訴訟法第三百二十六條第三百三十七條第三百三十八條ニ  
掲クル諸件ヲ記スヘシ)、、、

右民事訴訟法第三百三十五條ニ依リ申立候也

右、

(宛名前ニ同シ)

〔五五〕証書取寄ノ爲メ期間指定ノ申立

明治何年( )第何号何訴訟ニ關シ(原告又ハ、、、)ニ於テ使用セント  
スル何々証書ハ住所何某ノ手ニ存在致候間該証書取寄せタル上提出

三百四十二條  
三百四十四條  
三百七十三條  
三百七十四條  
四百八條



口頭ヲ以テ申立ル  
ヲ得

シ)ニ付該申立御却下相成度民事訴訟法第二百四十七條ニ依リ申請  
仕候也

右、

(宛名前ニ同シ)

〔五八〕私署証書ノ檢眞ヲ求ムル申立

三百五十二條  
三百五十三條  
三百七十三條  
三百七十四條  
四百八條  
印紙五十錢貼用  
區裁判所ニ於テハ  
口頭ヲ以テ申立ツ  
ルヲ得  
明治何年( )第何号何訴訟ニ關シ(原告又ハ、)ヨリ差出シタル何  
々私署証書ハ相手方何某ニ於テ眞否ヲ争ヒ候ニ付テハ該証書檢眞ノ  
御處分ヲ仰キ度依テ(原告又ハ、)ハ相當ニ定メラレタル期間内  
ニ同人ノ手跡印章ヲ對照スル爲メ何々書類ヲ提出可致又ハ同人ニ對  
シ御應ニ於テ一定ノ語辭ノ手記ヲ命セラレシコトヲ希望致候

右民事訴訟法第三百五十二條及第三百五十三條ニ依リ申立候也

右、

(宛名前ニ同シ)

〔五九〕公正証書檢眞ヲ經タル私署証書ノ眞否確定ヲ求

ムル申立

明治何年( )第何号何訴訟ニ關シ相手方何某ヨリ提出シタル何々証書  
ハ(偽造又ハ變造)ニ係ルモノト確認致候ニ付テハ該証書ノ眞否御確  
定相成度(原告又ハ、)ハ何々ノ證據方法ヲ以テ之ヲ證明可致候  
右民事訴訟法第三百五十一條ニ依リ申立候也

右、

三百五十一條  
三百七十三條  
三百七十四條  
四百八條  
印紙五十錢貼用  
區裁判所ニ於テハ  
口頭ヲ以テ申立  
ルヲ得

宛名前ニ同シ

〔六〇〕 檢証ヲ求ムル申立

明治何年( )第何号何訴訟ニ付左ノ事項ニ關シ民事訴訟法第三百五十七條ニ依リ檢証御處分ヲ仰キ度候

一、〳〳〳〳(檢証ヲ爲スヘキ事實及目的物ヲ記スヘシ)〳〳〳〳  
右同法第二百七十四條ニ依リ証據決定ヲ以テ御命令相成度此段申立候也

右〳〳〳〳

宛名前ニ同シ

〔六一〕 當事者本人ノ訊問ヲ求ムル申立

明治何年( )第何号何々訴訟ニ付既ニ(証人鑑定人ノ御訊問ヲ仰キ候處又ハ檢証處分ヲ仰キ候處)何々ノ事情有之候間尙ホ當事者本人共ノ御訊問ヲ仰キ度候

右民事訴訟法第三百六十條ニ依リ申立候也

右〳〳〳〳

宛名前ニ同シ

〔六二〕 証據保全ノ爲メ証人鑑定人ノ訊問「檢証」ヲ求ムル

申請其(一)

住所〳〳〳〳

三百五十七條  
三百七十三條  
三百七十四條  
四百八條

印紙五十錢貼用

區裁判所ニ於テハ  
口頭ヲ以テ申立ツ  
ルヲ得

三百六十條  
三百七十三條  
三百七十四條  
四百八條

印紙五十錢貼用

區裁判所ニ於テハ  
口頭ヲ以テスルコ  
トヲ得

三百六十五條乃至  
三百六十七條  
三百七十條  
三百七十三條  
三百七十四條  
印紙五十錢貼用

未タ訴訟ノ起ラサ  
ル前ニ申請スル例  
証據保全ノ手續ハ  
重モニ事跡ノ紀念  
又ハ界標ノ如キ証  
據ニシテ紛失滅失  
ノ恐レアル場合ニ  
用フル手續ナリ  
此申立ハ口頭ヲ以  
テ爲スコトヲ得

申請人 何 某

相手方 何 某

申請人儀(何々事件ニ付右何某ニ對シ近日ノ中訴訟提出可致候處又  
ハ明治何年月日右何某トノ間ニ何々契約取結置候處)該件ニ必要ナ  
ル何々証據ハ目下何々ノ事由ニ依リ(紛失又ハ使用シ難キ)恐レ有之  
候間証據保全ノ爲メ(証人鑑定人ノ訊問又ハ檢証)ヲ受ケ權利ノ喪失  
ヲ豫防致置度左ニ其事由致開陳候  
〵〵〵(訴訟法第三百六十七條ノ諸件ヲ記スヘシ)〵〵〵  
右民事訴訟法第三百六十五條第三百六十六條ニ依リ申請仕候也

右

某區裁判所監督判事何某殿

(六三) 証據保全ノ爲メ証人鑑定人ノ訊問「檢証」ヲ求ムル  
申請(其二)

住所〵〵〵

原告 (控訴人) 何 某

住所〵〵〵

被告 (被控訴人) 何 某

右當事者間ニ於テ現今(御廳御審理中又ハ某裁判所某控訴院御審理  
中)ニ係ル何々訴訟事件ニ關スル何々ノ証據ハ目下何々ノ事由ニ依  
リ(紛失又ハ使用シ難キ)恐レ有之候間証據保全ノ爲メ(証人鑑定人ノ  
御訊問又ハ檢証)ヲ受ケ置度候依テ其事由左ニ開陳致候

三百六十五條  
三百六十六條  
三百七十條  
三百七十三條  
三百七十四條  
四百八條  
印紙五十錢貼用  
訴訟ノ起リタル後  
ナニ申請スル例  
區裁判所ニ於テハ  
口頭ヲ以テ爲スコ  
トヲ得



區裁判所ニ於テハ  
口頭ヲ以テ爲スニ  
トナ得

被告  
(被控訴人)

何

某

九十六

明治何年( )第何号何訴訟何々事件ニ付證據決定ニ依リ何月何日證據  
調御施行相成候處(原告又ハ、)ニ於テ出頭致サ、ルカ爲メニ該  
調査ニ關シ希望ノ手續ヲ開陳スル機會ヲ失シ候然ルニ(右當日出頭  
致サ、ルハ何々ノ事由ニシテ全ク自己ノ過失ニ起因シタル義ニ無之  
又ハ訴訟手續ノ遲滯トモ相成ラサル儀ニ候間更ニ(追完又ハ補充)ノ  
御調査ヲ仰キ度民事訴訟法第二百八十四條ニ依リ此段申立候也

右、

○

某裁判所(控訴院)民事第何部長(判事何某殿

二百七十七條  
三百七十三條  
三百七十四條  
四百八條

印紙五十錢貼用

區裁判所ニ於テハ  
口頭ヲ以テ爲スニ  
トナ得

(六六) 證據決定ノ變更ヲ求ムル申立

明治何年( )第何号何訴訟ニ付何月何日御命令相成タル證據決定ニ對  
シ本日新メナル辯論ニ依リ左ノ事項變更ノ必要相生シ候間前御決定  
變更相成度候

一、

一、

右民事訴訟法第二百七十七條ニ依リ申立候也

右、

○

(宛名前ニ同シ)

九十七



○期日期間ニ關スル例

百六十九條  
百七十條

印紙二十錢貼用

〔六七〕辯論期日「變更」延期」申請

住所身分職業

原告  
(控訴人)

何

某

被告  
(被控訴人)

何

某

明治何年( )第何号何々訴訟 付何月何日ヲ以テ辯論期日ト被定候處  
同日ハ何々ノ事由ニ依リ出頭難致候間何月日( )ニ御變更又ハハマテ御  
延期ニ被成下度民事訴訟法第百六十九條及第百七十一條ニ依リ申請  
仕候也

右、

某裁判所(控訴院)民事第何部長(判事何某殿

〔六八〕期間伸長(短縮)ノ申請

(記名前ニ同シ)

明治何年(第何号何訴訟事件ニ關シ當事者ノ合意ヲ以テ何々ノ期間  
ヲ(伸長又ハ短縮)シ(何年月日ヨリ何日間又ハ何月日マテ)ト致シ度  
左ニ其理由ヲ疏明致候

右民事訴訟法第七十條及第七十一條ニ依リ双方連署ヲ以テ申請  
仕候也

右

(宛名前ニ同シ)

百七十條  
百七十一條  
印紙二十錢貼用

○訴訟ノ中斷中止休止ニ關スル例

百七十八條

印紙二十錢貼用

〔六九〕承繼人呼出ノ申立

住所何某承繼人  
住所身分職業

何 某

明治何年( )第何号何訴訟事件ニ於ケル(被告又ハ原告又ハ、)何  
某儀年月日死亡ニ付爾來訴訟手續中斷相成居候處最早受繼ヲ完了ス  
ルニハ充分ナル日子ヲ閱シタル義ニ候得共于今在蔣運延致居候ハ不  
都合ニ付速カニ受繼ヲ了セシムル爲メ且本案ノ辯論ヲ爲サシムル爲  
メ該承繼人何某御呼出相成度候若シ期日ニ至リ出頭セサル場合ニハ  
民事訴訟法第七十八條第三項ノ御處分ヲ可仰決心ニ有之候右同條

ニ依リ申立候也

右

某(裁判所)控訴院(民事第何部長)判事何某殿

〔七〇〕訴訟手續受繼通知ノ申立

住所(何某後見人)

何

某

百七十八條  
百八十條  
印紙二十錢貼用  
新相續人又ハ新後見人ヨリ訴訟ノ受繼ヲ相手方ニ通知スル例

明治何年(第何号何訴訟事件御審理中右之者(訴訟能力ヲ失ヒ又ハ後見解除又ハ死亡)候爲メ訴訟中斷相成居候處今般自分儀右何某ノ(跡相續致又ハ後見人ト相成)候ニ付テハ該訴訟手續受繼候間相手方何某へ通知致度民事訴訟法(第七十八條又ハ第八十條)ニ依リ此

段申立候也

右(何某後見人又ハ相續人)

住所身分職業

(宛名前ニ同シ)

〔七一〕訴訟手續續行通知ノ申立

住所何某後見人

住所身分職業

何

某

明治何年(第何号何訴訟御審理中(原告又ハ被告又ハ)何某(以下左ノ例ニ依リ記載シテ次行ニ接續スヘシ)

百八十條  
印紙二十錢貼用  
相手方ヨリ新後見人ニ向ヒ訴訟ノ續行ヲ通知スル例



右民事訴訟法第八十四條ニ依リ申請仕候也

右

(宛名前ニ同シ)

〔七四〕訴訟手續中止ノ申請却下ニ對スル即時抗告

住所、

抗告人 何 某

明治何年( )第何号何訴訟手續中止ノ義ニ付及申請候處申請採用セサル旨御決定相成而シテ此決定ハ何月何日送達ヲ受ケタリ然ルニ抗告人ニ於テハ左ノ理由ニ依リ御決定ニ服從難致候

依テ前申請ノ通御中止相成度民事訴訟法第八十九條ニ依リ即時抗告仕候也

右

某裁判所「監督」長ニ控訴院長(判事何某殿

〔七五〕訴訟手續中止ニ對スル抗告

(記名前ニ同シ)

明治何年( )第何号何訴訟御審理中何々ノ事故ニ依リ訴訟手續中止御決定相成候處抗告人ニ於テハ左ノ理由ニ依リ御決定ニ服從難致候

百八十九條  
四百五十五條  
印紙五十錢貼用  
相手方ヨリ申請シタル裁判所ノ職權ヲ以テシタルトテ開ハス總テノ中止處分ニ對シテ抗告スル例

依テ該御命令御取消相成度民事訴訟法第百八十九條ニ依リ及抗告候也

右

(宛名前ニ同シ)

○欠席判決ニ關スル例

〔七六〕欠席判決ヲ求ムル申立(其二)

住所、、、

原告 何 某

被告 何 某

明治何年( )第何号何訴訟ニ關シ御指定相成タル本日ノ口頭辯論ニ於テ

(被告何某ハ合式ノ呼出ヲ受ケナカラ出頭不致付テハ民事訴訟法第  
二百四十六條第百四十八條ニ依リ欠席判決ヲ以テ被告ニ對シ原  
告請求之通御言渡相成度)

二百四十六條  
二百七十三條  
二百七十四條

印紙二十錢貼用

第一審ノ例

區裁判所ニ於テハ  
口頭ヲ以テ爲スヨ  
トヲ得

假執行ニ關シテハ  
〔九一〕以下ヲ参照  
スヘシ

〔原告何某欠席致候ニ付テハ民事訴訟法第二百四十六條第二百四十七條ニ依リ欠席判決ヲ以テ訴御却下相成度〕

候〔且同法第何條ニ依リ假執行ノ宣言ヲ付セラレ度此段申立候也

右、、、

某裁判所〔民事第何部長〕判事何某殿

〔七七〕欠席判決ヲ求ムル申立〔其二〕

住所、、、

控訴人 何 某

被控訴人 何 某

四百二十八條  
四百二十九條  
印紙二十錢貼用  
第二審ノ例

明治何年〔第何号何訴訟ニ關シ御指定相成タル本日ノ口頭辯論ニ於テ

〔被控訴人何某ハ合式ノ呼出ヲ受ケナカラ出頭不成就テハ民事訴訟法第四百二十九條ニ依リ欠席判決ヲ以テ控訴人ノ請求通御判決相成度〕

〔控訴人欠席致候ニ付テハ民事訴訟法第四百二十九條ニ依リ欠席判決ヲ以テ控訴棄却相成度〕

候〔且同法第何條ニ依リ假執行ノ宣言ヲ付セラレ度〕此段申立候也

右、、、

某地方裁判所〔控訴院民事第何部長判事何某殿



二百五十三條  
四百六十六條  
三百七十三條  
四百八條

印紙五十錢貼用

〔七八〕欠席判決申立却下ニ對スル即時抗告

住所、

抗告人

何

某

明治何年( )第何号何訴訟ニ關シ何年月日口頭辯論期日ニ於テ相手方  
何某欠席ニ依リ欠席判決申立候處何月何日該申立ヲ採用セサル旨言  
渡サレタリ然レトモ抗告人ニ於テハ左ノ理由ニ依リ該御決定ニ服從  
難致候

依テ前申立ノ通御裁判相成度民事訴訟法第二百五十三條ニ依リ即時  
抗告仕候也

右

某裁判所監督長(控訴院長)判事何某殿

〔七九〕欠席判決ニ對スル故障申立

住所、

原告  
(控訴人)

何

某

被告  
(被控訴人)

何

某

當事者間ニ起リタル明治何年( )第何号何訴訟ニ付明治年月日送達  
相成タル明治年月日ノ欠席判決ニ對シ故障申立ツル旨趣左ノ如シ

又故障ヲ許サハル  
欠席判決(四百七  
十七條第二項二百  
六十三條第二項)  
ニ對シハ解意ナ

二百五十五條  
二百五十六條  
三百七十三條  
三百七十四條  
四百八條  
印紙五十錢貼用  
欠席判決ニ對シテ  
ハ期日ヲ解意シタ  
ル者ヨリ控訴上告  
ヲ爲スヲ得サルヲ  
以テ本則トス(三  
百九十八條四百五  
十四條)然レトモ  
茲ニ示ス例ニ依リ  
テ故障ヲ申立ツル  
コトヲ得  
又故障ヲ許サハル  
欠席判決(四百七  
十七條第二項二百  
六十三條第二項)  
ニ對シハ解意ナ

カリシコトヲ理由  
トスルトキニ限リ  
控訴上告ヲ以テ不  
服ヲ申立ツルコト  
ヲ得

二百五十七條  
四百六十六條  
三百七十三條  
四百八條  
印紙五十錢貼用

右民事訴訟法第二百五十五條ニ依リ故障申立候也

右

某裁判所(控訴院)民事第何部長(判事)何某殿

(八〇)欠席判決故障申立却下ニ對スル即時抗告

住所

抗告人

何

某

明治何年(第何号)何訴訟欠席判決ニ對シ年月日故障申立候處年月日  
(裁判長又ハ掛判事)何某殿ノ命令ヲ以テ却下セラレ而シテ此命令ハ  
何月日送達ヲ受ケタリ然レトモ抗告人ハ左ノ理由ニ依リ御命令ニ服  
從難致候

依テ故障申立御受理相成度民事訴訟法第二百五十七條ニ依リ即時抗  
告仕候也

右

某裁判所(監督)長(控訴院長)判事何某殿

(八一)欠席判決故障ニ付原狀回復ノ申立

住所

原告  
(控訴人)

何

某

住所

被告  
(被控訴人)

何

某

百七十四條以下  
三百七十三條  
四百八條  
印紙ハ印紙法第九  
條ニ依リ五十錢貼  
用  
原狀回復ニ關スル  
他ノ式ハ(一〇〇)  
以下ヲ參照スヘシ

公示送達ノ手續ニ依リ送達セラレタル場合ニハ此文体ヲ變更スヘシ

右當事者間ニ起リタル明治何年( )第何号何訴訟ニ付明治年月日送達相成タル明治年月日ノ欠席判決ニ對シ民事訴訟法第二百五十五條ノ故障期間ヲ經過致候處右ハ左ノ事由ニ依リ全ク自己ノ過失ニアラスシテ判決ノ送達アリタルヲ知ラサル義ニ有之候  
\\ \\ \\ \\ (自己ノ過失ニアラスシテ送達ヲ知ラサリシ事實及其疏明方法並ニ其障碍ノ止ミタル日等ヲ記スヘシ) \\ \\ \\ \\  
依テ該欠席判決ニ對シ故障ノ旨趣左ニ申述候  
\\ \\ \\ \\ (訴訟法第二百五十六條ノ條件ヲ記スヘシ) \\ \\ \\ \\  
右民事訴訟法第七十四條及ヒ同第二百五十五條ニ依リ原狀回復ノ手續ヲ以テ故障申立候也  
右 \\ \\ \\ \\

執行停止取消ノ申立ニ付テモ亦(一〇〇)以下ヲ見ル

(宛名前ニ同シ)

[八二] 原狀回復申立却下ニ對スル即時抗告

住所 \\ \\ \\

抗告人 何 某

百七十七條  
四百六十六條  
三百七十三條  
四百八條  
印紙五十錢貼用

明治何年( )第何号何訴訟欠席判決ニ對シ年月日原狀回復ヲ申立併セテ欠席判決ノ故障申立候處(裁判長又ハ掛判事)何某殿ノ命令ヲ以テ却下セラレ而シテ此命令ハ年月日送達ヲ受ケタリ然レトモ抗告人ハ左ノ理由ニ依リ御命令ニ服從難致候  
\\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\

依テ前申請御採用相成度民事訴訟法第七十七條ニ依リ即時抗告仕候也

右

(宛名前ニ同シ)

(八三) 欠席判決ニ對スル故障棄却ノ申立

住所、

原告  
(控訴人)

何

某

住所、

被告  
(被控訴人)

何

某

明治何年( )第何号何訴訟ニ付相手方何某ヨリ故障申立候處本日口頭  
辯論期日ニ出頭不成就テハ民事訴訟法第二百六十三條ニ依リ新欠席  
判決ヲ以テ該故障棄却相成度此段申立候也

右、

某(裁判所)控訴院(民事第何部長)判事何某殿

(八四) 欠席判決故障取下ノ申立

(記名前ニ同シ)

明治何年( )第何号何訴訟欠席判決ニ對シ年月日故障申立置候處都合  
ニ依リ取下致度此段申立候也

右、

(宛名前ニ同シ)

二百六十三條  
三百七十三條  
三百七十四條  
四百八條

印紙二十錢貼用

區裁判所ニ於テハ  
口頭ヲ以テ申立ッ  
ルコトヲ得

二百六十四條  
三百九十九條  
三百七十三條  
三百七十四條  
四百八條

區裁判所ニ於テハ  
口頭ヲ以テ爲スコ  
トヲ得

○其他準備書面ニ關スル例

準備書面トハ訴訟書類ノ總稱ト云フモ可ナルモノナレトモ茲ニ掲クル題目ハ他ニ特別ノ分類ヲ爲ストキハ紛雜ヲ致スヘキモノヲ蒐集センカ爲メニ用ヒタルナリ

〔八五〕次回ノ辯論期日ニ提出スヘキ事項通知ノ申立

(記名前例ニ同シ)

二百四條  
三百七十五條  
三百七十六條  
四百八條

區裁判所ニ於テハ  
直接ニ相手方ニ通  
知スルコトヲ得  
印紙二十錢貼用

明治何年( )第何号何々訴訟ニ付何月何日口頭辯論ノ節(原告又ハ被

告又ハ、、、)ハ左ノ事項ノ陳述ヲ爲サント欲スル見込ニ有之候

一何々ノ件

一何々ノ證據ヲ提出ス

一、、、

右ハ相手方ニ於テモ調査ヲ要スルモノト思量致候ニ付民事訴訟法第

二百四條ニ依リ豫メ通知致置度此段申立候也

某地方裁判所(控訴院)民事第何部長(判事何某殿

(八六) 訴擴張ノ申立

(記名前ニ同シ)

右當事者間ニ於テ今般左ノ事件ニ付新々ニ爭論ヲ生シ候處右爭論ニ係ル權利關係ノ成立スルト否トハ現今我等當事者間ニ起リアル明治何年(第何号何々訴訟)ノ御裁判ニ影響ヲ及ホス義ニ付其關係ヲ開陳スルコト左ノ如シ  
\\ \\ \\ (爭ヒトナリタル事實及其事實カ現ニ審理中ノ訴訟ニ如何ナル影響ヲ及ホスヤ及其証據方法一定ノ申立等ヲ記スヘシ) \\ \\ \\

二百一十一條  
二百一十三條  
二百一十四條  
二百一十八條

印紙二十錢貼用

區裁判所ニ於テハ口頭ヲ以テ爲スコトヲ得

右民事訴訟法第二百一十一條ニ依リ訴ノ擴張トシテ申立候間中間判決ヲ受ケ度候也

右 \\ \\ \\

某裁判所(控訴院)民事第何部長(判事何某殿

(八七) 重要事項ノ申立

(記名前ニ同シ)

明治何年(第何号何訴訟事件)ニ付左ニ掲ケル陳述ハ(未タ訴狀答辯書其他ノ書面ニ掲ケサルモノ)ニ付又ハ「前陳述ヲ更正削除附加致シ候モノ」ニ付(民事訴訟法)第二百二十二條又ハ第二百二十三條ニ依リ書面ヲ以テ申立候也

二百二十二條  
二百二十三條  
二百七十三條  
三百八十八條  
四百八條

二百廿二條ハ區裁判所ニ適用セズ其他ノ場合ニ於テモ區裁判所ニ於テハ口頭ヲ以テ爲スコトヲ得

（宛名前ニ同シ）

〔八八〕前審ニ於テ主張セサリシ攻撃〔防禦〕方法申立

住所、、、

控訴人 何 某

被控訴人 何 某

明治何年（第何号何訴訟事件ニ關シ今般前審ニ於テ主張セサリシ事

四百十五條  
四百十六條

印紙二十錢貼用

實及證據發見致候ニ付左ニ致陳述候

、、、、、

此事實及證據方法ハ何々ノ事由ニ依リ第一審ニ於テ提出致サ、ル義  
ニ有之候此ノ事ハ何々ヲ以テ疏明可致候

依テ右攻撃又ハ防禦方法御採用相成度民事訴訟法第四百十五條第四  
百十六條ニ依リ申立候也

右、、、

某地方裁判所（控訴院）民事第何部長（判事）何某殿

〔八九〕防禦方法却下申立

住所、、、

二百十條  
二百十四條  
二百七十三條  
二百七十四條

四百八條

印紙二十錢貼用

二百一條二百九條  
等ニ定メテシテ  
時機ヲ過キテ申立  
テタル防禦方法ヲ  
却下セシムコトヲ求  
ムル例  
區裁判所ニ於テハ  
口頭ヲ以テスルコ  
トヲ得

四百廿六條  
四百廿七條

印紙二十錢貼用

控訴ニ於テ前ノ例  
ニ依リテ防禦方法  
ヲ却下スルトキハ  
其判決ニ於テ後日  
其防禦方法ヲ主張  
スル權利ヲ留保ス  
ル旨ヲ言渡スモノ  
トス然ルトキハ訴  
訟ハ其儘其裁判所  
ニ繫属スルナリ故  
ニ此例ニ依リテ更  
ニ審理ヲ求ムルモ  
ノトス右留保ノ判  
決ヲ脱漏シタルト  
キハ(一三八)ノ例  
ニ依リテ補充ヲ求  
ムルコトヲ得

原告  
(控訴人)

何

某

被告  
(被控訴人)

明治何年( )第何号何訴訟ニ關シ相手方何某ハ防禦方法トシテ何々  
(反訴又ハ抗辯ヲ指ス)ノ申立提出致候得共右ハ民事訴訟法(第二百一  
條又ハ第二百九條)ノ規定ニ違背シタルモノニ付御却下相成度候  
右民事訴訟法第二百十條ニ依リ申立候也

右

某裁判所(控訴院)民事第何部長(判事何某殿

(九〇)防禦方法留保ノ判決ニ依リ更ニ訴訟ノ審理ヲ

求ムル申立

住所

控訴人

何

某

被控訴人

何

某

右當事者間ニ於ケル明治何年( )第何号何訴訟ニ關シ年月日(被控訴  
人又ハ控訴人)ヨリ提出シタル何々ノ申立ハ時機ニ後レタルモノト  
シ何年月日ノ判決ヲ以テ民事訴訟法第二百十條ニ依リ却下セラレ且  
(被控訴人又ハ控訴人)敗訴ノ旨御言渡相成タリ然レトモ該防禦方法  
主張ノ權利ハ第四百廿六條ニ依リテ留保セラレ候ニ付テハ該防禦方  
法ニ關シ更ニ御審理ヲ遂ケラレ度左ニ其事實ヲ陳述致候  
防禦方法ノ事實及証據



就テハ前判決ニ基キ(控訴人又ハ被控訴人)へ支拂ヒタル金額何程又ハ給付シタル何品何程速カニ(被控訴人又ハ控訴人)へ返濟スヘキ様御判決相成度候

右民事訴訟法第四百廿七條ニ依リ申立候也

右

某地方裁判所(控訴院)民事第何部長判事何某殿

○假執行ノ申立ニ關スル例

五百六條  
三百七十四條

印紙二十錢貼用

此申立モ亦訴狀答辯書又ハ故障申立等ニテ陳述シタルトキハ別ニ差出スヲ要セス又區裁判所ニ於テハ口頭ヲ以テ申立ツルコトヲ得

(九二)假執行ノ宣言ヲ求ムル申立

住所

(原告  
控訴人)

何

某

(被告  
被控訴人)

何

某

明治何年( )第何号何々訴訟ニ付(原告又ハ被告又ハ控訴人又ハ)ノ申立相立テ候上ハ(以下左ノ文詞ニ準シテ記載シ次行ニ接續スヘシ)

(民事訴訟法第五百二條第何項ニ依リ)

(御命令ニ隨ヒ保証ヲ立ツヘク候間民事訴訟法第五百三條第一項ニ

保証トハ保証人ヲ立テ若シハ金錢有價証券等ヲ金庫ニ供託シテ損害ヲ生

セシメタルトキノ  
保証ト爲サテ云フ  
第二審ニ於テ假執  
行ニ付爲シタル裁  
判ニ對シテハ不服  
ヲ申立ルコトヲ得  
ス  
假執行ノ執行手續  
ニ關シテハ強制執  
行ノ部ニ示ス

依リ)  
(相手方ノ求メニ應シ別紙証明書ノ通り保証相立候間民事訴訟法第  
五百五條ニ依リ)

(判決ノ確定スルマテ執行ヲ中止候テハ何々ノ事由ニ依リ「償ヒ難  
キ又ハ計リ難キ」損害ヲ受クヘキモノニ候間民事訴訟法第五百三  
條第二項ニ依リ)

(又第五百九條ニ依ラントスルトキハ該條ニ適當スル事由ヲ記ス)  
假執行ノ宣言ヲ付セラレ度候此段申立候也

右

某裁判所(控訴院)民事何部長(判事何某殿

(九二)假執行ノ宣言ヲ拒ム申立

(記名前ニ同シ)

五百四條  
五百三條  
五百六條  
三百七十四條

印紙二十錢貼用

此申立ハ答辯書又  
ハ故障申立中ニ於  
テ陳述スルヲ通例  
トス然レトモ後ニ  
至リテ申立ルトキ  
ハ此例ニ依ル  
區裁判所ニ於テハ  
口頭ヲ以テ申立ツ  
ルコトヲ得

明治何年( )第何号何々訴訟ニ關シ最早辯論終結ノ御運ヒニ到ルヘク  
候處該事件ハ何々ノ事由ニ依リ判決確定前ニ執行相成候テハ回復ス  
ルヲ得サル損害ヲ受ク可キモノニ付

(民事訴訟法第五百一條ニ依リ付セラルヘキ假執行ノ御宣言ハ假  
ニ執行ス可カラサルモノト御宣言相成度候)

(相手方何某ヨリ民事訴訟法第五百二條又ハ第五百三條ニ依リ假執  
行申立候得共該申立ハ御却下相成度候)

右民事訴訟法第五百四條ニ依リ申立候也

右

(宛名前ニ同シ)

五百十條  
三百七十四條

印紙二十錢貼用

此申立ハ故障申立  
又ハ控訴狀等ニ記  
スルヲ通例トスレ  
トモ後日ニ至リ申  
立ツルトキハ此例  
ニヨルヘシ

區裁判所ニ於テハ  
口頭ヲ以テ爲スコ  
トヲ得

〔九三〕假執行ニ因リ「支拂又ハ給付」シタルモノ、返還ヲ  
求ムル申立

(記名前ニ同シ)

右當事者間ニ於ケル(御廳又ハ某裁判所)明治何年( )第何号何訴訟判  
決ニ關シ年月日(原告又ハ何々)ヨリ(故障申立又ハ御廳へ控訴提起)候  
處御審理ノ上(該判決又ハ該判決中假執行ノ宣言)ヲ廢棄又ハ變更ノ  
御裁判相成候場合ニハ前判決ニ基キ年月日(原告又ハ何々)へ支拂又  
ハ給付シタル前記何々ヲ(被告又ハ何々)へ返還スヘキ様御判決相成  
度候

右民事訴訟法第五百十條ニ依リ申立候也

右ノノノ

(宛名前ニ同シ)

五百十二條  
三百七十四條

印紙二十錢貼用

此申立ハ本案ノ判  
決アルマテノ間一  
時假執行ノ停止取  
消ヲ求ムル例ナリ  
故ニ控訴狀又ハ故  
障申立ニ於テ假執  
行ノ廢棄變更等ノ  
申立ヲ爲シタリト  
モ夫レニ拘ハラズ  
此申立ヲ爲スヲ得  
ヘシ

區裁判所ニ於テハ  
口頭ヲ以テ爲スコ  
トヲ得

〔九四〕故障申立控訴提起ニ付假執行停止取消申立

(記名前ニ同シ)

右當事者間ニ於ケル(御廳又ハ某裁判所)明治何年( )第何号何訴訟判  
決ニ對シ年月日(故障申立又ハ御廳へ控訴提起致)候ニ付テハ本案判  
決ニ至ルマテ

(御命令ニ從ヒ保証ヲ立ツヘク候間「該判決ニ宣言セラレタル假執行  
一時御停止」又ハ「己ニ着手セラレタル假執行處分御取消相成度候」  
(該事件ハ何々ノ事情ニ依リ一旦執行相成候上ハ償フ能ハサル損害ヲ  
生スヘキ義ニ付別ニ保証ヲ立ツルノ條件ヲ付セスシテ假執行一時

御停止相成度候

右民事訴訟法第五百十二條及第五百條ニ依リ申立候也

右

(宛名前ニ同シ)

〔九五〕假執行續行申立

(記名前ニ同シ)

右當事者間ニ於ケル(御廳又ハ某裁判所)明治何年( )第何号何訴訟判  
決ニ對シ年月日(原告又ハ) (ヨリ)故障申立又ハ御廳へ控訴提起  
致)且併セテ假執行ノ停止取消ヲ求メ候得共到底理由ナキ(故障又ハ  
控訴)ナルニ依リ假執行續行御命令相成度候若シ右續行ニ付保証ヲ必

五百十二條  
三百七十四條  
印紙二十錢貼用  
此申立ハ本案ノ判  
決アルマテ假執行  
ノ續行ヲ求ムル例  
ナリ故ニ答辯書中  
假執行ニ關スルモ  
トシ陳ヘタリトモ  
夫レニ拘ハラヌ此  
申立ヲ爲スコトヲ  
得  
區裁判所ニ於テハ  
口頭ヲ以テ爲スコ  
トナ得

要ト認メラシ候ハ、御命令ニ應シ相當保証相立可申候

右民事訴訟法第五百十二條及ヒ第五百條ニヨリ申立候也

右

(宛名前ニ同シ)

御停止相成度候

右民事訴訟法第五百十二條及第五百條ニ依リ申立候也

右ノノ

(宛名前ニ同シ)

(九五) 假執行續行申立

(記名前ニ同シ)

右當事者間ニ於ケル(御廳又ハ某裁判所)明治何年( )第何号何訴訟判  
決ニ對シ年月日(原告又ハノノノ)(ヨリ)故障申立又ハ御廳へ控訴提起  
致)且併セテ假執行ノ停止取消ヲ求メ候得共到底理由ナキ(故障又ハ  
控訴)ナルニ依リ假執行續行御命令相成度候若シ右續行ニ付保証ヲ必

五百十二條  
三百七十四條  
印紙二十錢貼用  
此申立ハ本案ノ判  
決アルマテ假執行  
ノ續行ヲ求ムル例  
ナリ故ニ答辯書中  
假執行ニ關スルコ  
トヲ陳ヘタリトモ  
夫レニ拘ハラヌ此  
申立ヲ爲スコトヲ  
得  
區裁判所ニ於テハ  
口頭ヲ以テ爲スコ  
トヲ得

要ト認メラシ候ハ、御命令ニ應シ相當保証相立可申候

右民事訴訟法第五百十二條及ヒ第五百條ニヨリ申立候也

右ノノ

(宛名前ニ同シ)

○判決ノ更正補充及送達ニ關スル例

〔九六〕判決ノ更正ヲ求ムル申立

住所身分職業

原告 (控訴人) 何 某

住所

被告 (被控訴人) 何 某

右當事者間ニ於ケル明治何年( )第何號何訴訟何月何日ノ判決中左ノ  
廉(違算又ハ書損又ハ何々)ニ付更正相成度候

一ノノノノ  
一ノノノノ

右民事訴訟法第二百四十一條ニ依リ申立候也

二百四十一條  
二百七十三條  
三百七十四條  
四百八條

印紙二十錢貼用

區裁判所ニ於テハ  
口頭ヲ以テ申立ル  
ヲ得

右

某裁判所監督長控訴院長判事何某殿

〔九七〕判決更正ニ對スル即時抗告

住所

抗告人 何 某

明治何年( )第何號何訴訟判決中更正ノ件何月日送達ヲ受候處右御更  
正ニ對シテハ左ノ理由ニ依リ服從難致候

右民事訴訟法第二百四十一條ニ依リ即時抗告仕候也

右

二百四十一條  
四百六十六條  
三百七十三條  
四百八條  
印紙五十錢貼用

(宛名前ニ同シ)

〔九八〕判決補充ノ爲メ追加裁判ヲ求ムル申立

住所

原告 (控訴人) 何 某

被告 (被控訴人) 何 某

右當事者間ニ於ケル明治何年( )第何號何訴訟判決年月日送達ヲ受ク  
候處左ノ事項脱漏致居候間民事訴訟法第何條ニ依リ補充相成度候

一  
一  
一

二百四十二條  
二百四十三條  
三百七十三條  
三百七十四條  
四百八條

印紙二十錢貼用  
區裁判所ニ於テハ  
口頭ヲ以テスルヲ  
得

依テ民事訴訟法第二百四十二條ニ依リ追加裁判ヲ仰候也

右、

(宛名前ニ同シ)

[九九] 判決送達ノ申立

(記名前ニ同シ)

右當事者間ニ起リタル明治何年( )第何號何訴訟何月何日判決相成候ニ付テハ(當事者双方又ハ相手方何某)へ判決正本御送付相成度民事訴訟法第二百二十八條ニ依リ申立候也

右、

某裁判所(控訴院)書記課御中

二百三十八條  
二百三十五條  
二百七十三條  
二百七十四條  
四百八條

印紙ハ判決正本一通ニ付五十錢宛ノ割ニテ貼用  
區裁判所ニ於テハ口頭ヲ以テ爲スニトテ得

百七十四條以下

印紙ハ印紙法第九條ニ依リ控訴狀ニ同シ

原狀回復トハ不變期間ヲ經過シタルトキ回復ヲ求ムル手續ナリ法律ニ於テ不變期間ト定メタルモノ大畧左ノ如シ  
二百五十五條  
四百條  
四百三十七條  
四百六十六條  
四百七十四條  
八百四條  
然レトモ茲ニ示ス例ハ單ニ控訴ノ爲メ原狀回復ヲ求ムル例ナリ其他ノモノハ之ニ準スヘシ

○原狀回復ニ關スル例

欠席判決及抗告及督促手續ノ部參照スヘシ

二〇〇 控訴提起ニ付原狀回復申立

住所身分職業

控訴人

何

某

被告訴人

何

某

右當事者間ニ起リタル何々訴訟事件ニ關シ明治年月日言渡サレタル某裁判所ノ判決ニ對シ控訴人ハ民事訴訟法第四百條控訴提起ノ期間ヲ經過致候處右經過ノ原因ハ左ニ開陳致候事實ヨリ生シタル義ニ有之候間原狀回復御認許相成度候

原狀回復ノ原因タル事實及疏明





右民事訴訟法第五百條ニ依リ申立候也

右ノノノ

某裁判所監督「長」控訴院長(判事何某殿

五百條

印紙二十錢貼用

「二〇二」原狀回復執行停止申立ニ關シ強制執行ノ續行ヲ求

ムル申立

(記名前ニ同シ)

今般(御廳又ハ某裁判所)明治何年( )第何號何訴訟事件判決ニ關シ相  
手方何某ヨリ原狀回復ヲ申立テ併セテ強制執行一時停止方申立候處  
(被告又ハノノノ)ニ於テハ御命令ニ從ヒ保証相立可申候間強制續行  
御命令相成度候

右民事訴訟法第五百條ニ依リ申立候也

右ノノノ

某裁判所(控訴院)民事第何部長(判事何某殿

○抗告ニ關スル例

抗告ノ例ハ諸所ニ之ヲ示シテトモ茲ニ示スモノハ一般ノ例ト知ルヘシ

二〇三 何々ニ對スル抗告

住所、

抗告人 何 某

明治何年( )第何號何訴訟事件ニ關スル何々ノ事項ニ付何年月日ノ御

(決定又ハ命令)ニ對シテハ左ノ理由ニ依リ服從難致候

、、、、、

(又口頭辨論ヲ經スシテ爲サレタル決定命令ヲハ其旨ヲ記スヘシ)

(又抗告裁判所ノ裁判ニ對シ抗告スルトキハ訴訟法第四百五十六條

第二項ニ示ス事由ヲ記スヘシ)

四百五十五條以下  
印紙五十錢貼用

〔又急迫ナル場合ニ於テ訴訟法第四百六十一條ニ依リ直チニ抗告裁判所へ提出スルトキハ其旨ヲ記スヘシ〕  
右民事訴訟法第何條ニ依リ及抗告候也

右

某裁判所「監督」長「控訴院長」判事何某殿

四百六十六條

印紙五十錢貼用

〔二〇四〕何々ニ對スル即時抗告

〔記名前ニ同シ〕

明治何年（）第何號何訴訟ニ關スル何々事件ニ付明治何年月日送達相成タル年月日ノ御（決定又ハ命令）ニ對シテハ左ノ理由ニ依リ服從難致候

（其他ハ前例ニ記スルモノヲ參照スヘシ）

右民事訴訟法第何條ニ依リ即時抗告仕候也

右

（宛名前ニ同シ）

百七十四條以下

印紙ハ印紙法第九條ニ依リ五十錢貼用

其他ハ〔二〇〇〕以下ヲ見ルヘシ

〔二〇五〕即時抗告ニ付原狀回復申立

住所、

原告（控訴人）

何 某

被告（被控訴人）

何 某

右當事者間ニ起リタル明治何年( )第何號何訴訟ニ關スル何々事件ニ付明治年月日送達相成タル年月日ノ(決定又ハ命令)ニ對シ民事訴訟法第四百六十六條ノ抗告期間ヲ經過致候處右ハ左ノ事情ニ原因シタル義ニ候條原狀回復御認許相成度候

、、、、、(天災其他避シ可カラサル事變ノ爲メニ不變期間ヲ遵守スルコトヲ得サリシ事實及其疏明方法ヲ記スヘシ)、、、依テ該御決定又ハ命令ニ對シ即時抗告ヲ爲ス主旨左ニ申述候

右民事訴訟法第七十四條及同第何條(即時抗告ヲ許ス法條)ニ依リ原狀回復ノ手續ヲ以テ即時抗告申立候也

右、、、

○

(宛名前ニ同シ)

四百六十二條

印紙二十錢貼用

裁判所ヨリ相手方ニ對シ抗告アリシコトヲ通知セラルタルトキニ申立ヲ爲ス例

(一〇六) 抗告ニ對スル申立

(記名前ニ同シ)

明治何年( )第何號何訴訟ニ關スル何々事件ニ對シ(原告又ハ、、、)

何某ヨリ(抗告又ハ即時抗告)申立タル趣何年月日御通知相成候處左

ノ理由ニ依リ抗告人ノ申立ハ抗告ノ理由ナキモ、ト思量仕候

、、、、、

依テ抗告御却下相成度民事訴訟法第四百六十二條ニ依リ申立候也

右、、、

○

某裁判所(控訴院)民事第何部長(判事)何某殿

四百六十五條  
四百六十六條  
第四項

印紙二十錢貼用

受命判事、受託判事、書記ノ爲シタル處分ニ付テハ訴訟法ノ規定ニ違背スルコトアルモ直チロ抗告スルヲ得ヌ必ス先ツ此書面ヲ受訴裁判所ニ出シ其裁判ヲ得タル後尙キ不服アルトキ抗告スルモノトス

〔二〇七〕處分變更ヲ求ムル申立

(記名前ニ同シ)

右當事者間ニ起リタル何々訴訟事件ニ付何々取調方某裁判所判事何某殿へ囑託セラレ又ハ判事何某殿へ命令セラレ候處同判事ニ於テ爲サンタル何々處分ハ法律ニ違背シタルモノト思考候間左ニ其事實及ヒ理由致開陳候

依テ該處分ノ變更ヲ求メ度民事訴訟法第四百六十五條ニ依リ仰御裁判候也

右ノノノ

(宛名前ニ同シ)

○訴訟費用ニ關スル例

八十四條

印紙二十錢貼用

判決ノ執行シ得ヘキ場合ニ至リタルトキ申請ノ例

主參加、從參加ニ關スル費用モ亦シニ準シテ申請スヘシ  
區裁判所ニ於テハ口頭ヲ以テスルコトヲ得

〔二〇八〕訴訟費用額確定ノ申請(其一)

(記名前ニ同シ)

右當事者間ニ於ケル御廳明治何年( )第何號何訴訟事件ニ付(原告又ハ被告又ハ控訴人又ハ被控訴人)何某ハ明治年月日某(裁判所又ハ控訴院)ノ(執行力アル判決又ハ認諾ニ基キタル判決)ニ因リ

(訴訟費用ノ全部又ハ幾分又ハ何々ノ費用ヲ除ク外全部又ハ幾分ニ(何々ノ事件ニ依リ生シタル費用)

ヲ負擔スヘキ者ニ有之候

(且原告又ハ何々ハ某裁判所第一審ノ判決ニ對シ控訴シ而シテ年月日控訴ヲ取下ケタルモノナレハ此ニ關スル費用モ民事訴訟法第七十七

條ニ依リ負擔スヘキモノニ有之候

依テ別紙訴訟費用計算書並ニ疏明書類何通提出致候間右(原告又ハ何々)何某カ辨濟スヘキ訴訟費用額並ニ確定決定ノ費用額御確定相成度候也

右、

某裁判所監督長判事何某殿

〔二〇九〕訴訟費用額確定ノ申請(其二)

(記名前ニ同シ)

八十四條  
印紙二十錢貼用  
訴ヲ取下、請求ヲ拋棄シタル者ニ對スル費用請求ノ例ニ參加從參加ノ場

右當事者間ニ於ケル明治何年( )第何號何訴訟事件ニ付(原告又ハ何々)何某ハ年月日(訴ヲ取下又ハ其請求ヲ拋棄)候ニ付テハ該訴訟費用

合モ亦之ニ準ヌ  
區裁判所ニ於テハ口頭ヲ以テスルコトヲ得

ハ民事訴訟法第七十二條第二項ニ依リ(原告又ハ何々)何某ノ負擔スヘキモノニ有之候

依テ別紙訴訟費用計算書並ニ疏明書類何通提出候間右(原告又ハ何々)何某カ辨濟スヘキ訴訟費用額並ニ確定決定ノ費用額御確定相成度候也

右、

(宛名前ニ同シ)

〔二一〇〕訴訟費用計算書

(記名前ニ同シ)

右當事者間ニ於ケル御應明治何年( )第何號何訴訟事件ニ關スル年月

日(某地方裁判所又ハ某控訴院ノ判決)ニ付テノ訴訟費用ハ左ノ通  
有之候

一金

第一審ノ費用總額

内譯

金

裁判所ノ費用及立替金

内

訴訟印紙代

金

証人日當旅費

金

鑑定人日當旅費

金

\\ \\

執達吏ノ費用及立替金

金

内

手數料

立替金

金

金

金

其他ノ立替金

金

内

金

金

第二審ノ費用總額

一金

内譯

裁判所ノ費用及立替金

金

内

金

訴訟印紙代





何 某

前記ノ者ニ對シ明治何年( )第何號何々訴訟事件ニ關シ左ノ理由ニ依  
リ訴訟費用ノ辨濟ヲ受度候

\\ \\ \\ \\ (前記ノ者ノ過失懈怠ニ依リ費用ヲ生シタル事實及疏明方  
法ヲ記ス) \\ \\ \\ \\

右民事訴訟法第八十三條ニ依リ申立候也

住所身分職業

原告又ハ  
何々 \\ \\ \\ \\ ○

某裁判所(控訴院)民事第何部長(判事)何某殿

(一一二)費用負擔拒絕ノ申立

住所 \\ \\ \\

何 某

八十三條

前例ニ依リテ請求  
ヲ受タル者其請求  
ヲ拒ル例

印紙二十錢貼用

區裁判所ニ於テハ  
口頭ヲ以テスルコ  
トヲ得

前記ノ者ヨリ明治何年( )第何號何訴訟ニ關シ何々ノ費用辨濟方年月  
日申立候得共(本官又ハ自分)ニ於テハ左ノ理由ニ依リ(負擔スヘキ義  
務無之ニ付該申立却下相成度又ハ同人ノ請求ハ過當ニ付何程ニ減セ  
ラレ度候

右民事訴訟法第八十三條ニ依リ陳辨仕候也

〔某裁判所又ハ控訴院書記又ハ

〔某區裁判所執達吏

住所 \\ \\ \\

前記何某後見人〔辨護士

〔訴訟代理人

(宛名前ニ同シ)

(一一三) 手数料及立替金確定ノ申請

住所 \ \ \

何 某

何 某

右當事者間ニ於ケル 御廳明治何年( )第何號何々訴訟ニ關シ右(原告) 又ハ被告又ハ何々(何某ハ)御廳ニ於テ又ハ某地方裁判所某控訴院ニ 於テ)訴訟上ノ救助ヲ受ケタルニ依リ(本官又ハ本辨護士)ハ民事訴訟 法第九十七條ニ依リ(附添致シ)又ハ附添被命候處其相手方何某ハ明

九十九條 八十四條

印紙二十錢貼用

訴訟上救助ヲ受ケタル者ニ附添シタル執達吏辨護士ヨリ其費用ヲ取訴シタル相手方ニ對シテ

區裁判所ニ於テハ口頭ヲ以テスルコトヲ得

治年月日(御廳又ハ某地方裁判所某控訴院ニ於テ言渡サレタル執行)カアル判決又ハ認諾ニ基キタル判決(訴ヲ取下タル)控訴ヲ取下タル(請求ヲ抛棄シタル)和解シタル)ニ依リ該費用ヲ負擔スヘキ者ト相定マリ候ニ付テハ右何某ノ爲メニ要シタル手数料及立替金ハ民事訴訟法第九十九條ニ依リ相手方何某ヨリ辨濟ヲ受ケ度候依テ別紙計算書並疏明書類何通提出候間確定決定ノ費用ト共ニ御確定相成度候也

住所身分

何某辨護士

某區裁判所執達吏

某裁判所監督長判事何某殿

八十五條  
九十九條  
八十三條

〔二一四〕訴訟費用額確定決定ニ對スル即時抗告  
〔二〇八〕〔二〇九〕〔一一一〕〔一一三〕等ノ申立ニ對シテ爲サレタル決定ニ付不服ナルトキハ即時抗告ヲ爲スヲ得ヘシ其文例ハ〔一〇四〕ニ依ルヘシ

〔二一五〕(前訴訟費用未済ノ防訴抗辨)

住所、、、

被告

何

某

何々訴訟ニ對スル防訴抗辨

原告

何

某

百九十八條  
二百六條  
三百七十九條  
四百八十六條  
印紙二十錢貼用

右原告ヨリ係ル明治何年( )第何號何々訴狀送達相成候處被告ハ左ニ陳述候通り前訴訟費用ノ辨濟ヲ受ケサルヲ以テ本案ノ請求ニ應スル義務無之候

、、、、(取下ケタル訴ヲ再ヒ起シタル始末ヲ記シ且前訴訟費用ノ辨濟ナキコトヲ陳スヘシ)、、、

右民事訴訟法第九十八條及第二百六條ニ依リ防訴抗辨提出候也

右

、、、、  
某裁判所監督長判事何某殿